首都大学東京 都市環境学部 観光科学科
首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学域

ANNUAL REPORT

FY 2018

Department of Tourism Science Tokyo Metropolitan University

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

TOURISM SCIENCE

目次

1．スタッフ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・01

2．研究概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・02

3．研究成果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

4．特定学術研究　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25

5．学生教育　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

6．ECO-TOP プログラム　・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

7．ＡＳＥＡＮ国際学生交流事業学生派遣プログラム　・・31

8．観光経営副専攻　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32

9．社会貢献　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33

10．受賞等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

11．コース・学域プロモーション　・・・・・・・・・・・・・37

1．スタッフ

1．1　自然環境マネジメント領域

菊地 俊夫
教授／理学博士（筑波大学）
地理学（農業・農村地理学 , 観光地理学）, 自然ツーリズム学
※コース長／学域長

沼田 真也
教授／博士（理学）（東京都立大学）
熱帯生物学 , 都市生態学 , 自然保護地域管理

大澤 剛士
准教授／博士（理学）（神戸大学）
生物多様性情報学、保全科学、生態系管理学

杉本 興運
助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
観光地理学 , 応用地理学 , 地理情報学

高木 悦郎
助教／博士（農学）（東京大学）
森林動物学 , 個体群生態学 , ナチュラルヒストリー

ラナウィーラゲ　エランガー
特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
wildlife based tourism, human dimensions of wildlife

太田 慧
特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
観光地理学 , 土地利用研究 , 沿岸地域研究 ,GIS

1．2　地域計画・マネジメント領域

清水 哲夫
教授／博士（工学）（東京工業大学）
交通学，観光計画学，観光政策学，社会基盤計画学

川原 晋
教授／博士（工学）（早稲田大学）
観光まちづくり , 観光地域マネジメント , 都市デザイン

岡村 祐
准教授／博士（工学）（東京大学）
都市デザイン , 都市計画 , 観光まちづくり , 観光地域史

片桐 由希子
助教／博士（学術）（慶應義塾大学）
ランドスケープ計画 , 観光計画

野田 満
助教／博士（工学）（早稲田大学）
農村計画 , 都市・地域デザイン , 観光まちづくり

古川 尚彬
特任助教／修士（建築学）（早稲田大学）
都市計画 , 住環境改善 , 歴史的環境保全

平田 徳恵
特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
地域ブランディング , 観光まちづくり , 空間デザイン , 環境色彩

1．3　行動・経営科学領域

倉田 陽平
准教授／ Ph.D.（空間情報理工学）（University of Maine）
地理情報学 , 観光情報学

直井 岳人
准教授／学術（The University of Surrey）, 工学（東京工業大学）
観光学

日原 勝也
准教授／博士（経営学）（筑波大学）
ミクロ経済学、経営学、観光政策、交通政策

小笠原 悠
助教／博士（工学）（弘前大学）
社会システム工学

戸崎 肇
特任教授／博士（経済学）（京都大学）
交通政策 , 観光政策

阿曽 真紀子
特任助教／修士（観光学）（琉球大学）, 経営学修士（専門職・MBA）（京都大学）
観光 , 経営管理

鈴木 祥平
特任助教／博士（観光科学）（首都大学東京）
観光情報学・観光マーケティング・Web データマイニング

2．研究概要

2．1　自然環境マネジメント領域

大都市圏におけるジェントリフィケーションの研究（菊地俊夫，杉本興運）

本研究は，グローバル化が進展する社会における都市のジェントリフィケーションと農村のルーラルジェントリフィケーションとのネクサス（連環）形成を目指すものである．一般には都市におけるジェントリフィケーションの派生形と捉えられるルーラルジェントリフィケーションは，実際には農村地理学や農村社会学の観点から捉えられ，独自の展開を見せてきた．しかし，グローバル化や人々の移動や交流が活発化する現在，都市農村二分論にもとづく従来のジェントリフィケーション研究およびルーラルジェントリフィケーション研究では，相互作用しながら変化する大都市圏のダイナミズムを捉えることが困難となってきている．そのような大都市圏のダイナミズムを測り，応用することが地域計画や政策に求められている．そこで，本研究では都市と農村を包摂するネクサス（連環）としてのジェントリフィケーションの役割と意義について明らかにするとともに，ジェントリフィケーション研究の新しい視点としてのポジティブ面を強調する．具体的には，イギリスのレスターとロンドンをを中心に研究を進め，都市域におけるコミュニティガーデンがルーラルジェントリフィケーションの社会的持続性に貢献していることを明らかにした．

イギリス・レスター近郊におけるルーラルジェントリフィケーション

カナダにおける農村空間の商品化による都市－農村共生システム構築の実証的研究（菊地俊夫）

先進国の農村空間では生産機能が相対的に弱まり，消費機能が強まっている．そしてさまざまな農村資源を消費者に提供することを，農村空間の商品化として捉えることができる．本研究ではカナダのブリティッシュコロンビア州において，農村空間の商品化がいかなる形態で，どのように進み，農業・農村が維持されているのか，それによってどのように都市－農村共生システムが構築されｗているのかを実証研究に基づいて明らかにした．カナダでは多くの人々が自己実現のために，あるいは投資の対象として農村空間の商品化を進めている．また，カナダでアｈ消費者との関係をより重視しており，消費者が農村空間を楽しめる工夫がなされ，商品やサービスがより魅力的なことが多い．さらにカナダでは，商品化を進める主体がネットワーク化され，全体として有効に機能するように工夫されている．つまり，農村空間を構成する農場や土地，さまざまな地域資源，あるいは住民やコミュニティ，役所や企業・事業者などが結びつけられ，地域一丸となって農村空間の商品化が進められている．いわば，カナダでは農村空間の消費が，一般住民の生活の一部にもなっている．

カナダ・バンクーバー近郊におけるイチゴの摘み取り農園

大都市における農空間の保全と適正利用に関する研究（菊地俊夫，太田慧）

大都市であると同時に豊かな「農」，あるいは「農」空間が重要な役割を果たす東京を「アグロポリス」（農共生都市）と位置づけながら，アグロポリス・東京の「農」に関わる広義のステークホルダーの現状とそれぞれの関係性について把握した上で，それぞれの有機的な繋がりとそれらの将来的な持続性を図るための調査・研究を実施し，東京における様々な施策の実現に資する基礎資料を提供する．さらに，「農」の「業」として持続性を図るための農業後継者や新規就農者などの人材育成を行うとともに，新たなタイプの市民農園やコミュニティガーデンなどのさまざまな社会実験を行い，それらの実施による「農」空間の保全と活用の可能性を自治体や地域の性格，あるいは地域の諸条件に基づいて可能性を検討する．最終的には，東京都における「農」と「業」，「土地」，「教育」，「福祉」，「安全」との組み合わせタイプの最適立地や最適分布を地域ごとに明らかにした．

東京近郊の小平市における都市農業と農産物直売所

日本農業の存続・発展戦略と地域的条件（菊地俊夫）

農業を支える地域的条件としては，さまざまなものがある．まず，位置的条件としては農産物の市場である大都市あるいは広域中心都市，地方都市への近接性が重要である．自然条件では低地にあるか台地にあるか，河岸段丘上や盆地にあるか，山間丘陵地，あるいは火山山麓にあるか，土壌の肥沃度などが地域の性格を決定し，さらには気候が温暖か冷涼か，降水量が多いか少ないか，積雪の有無，灌漑用水の得やすさなどに注目しなければならない．経済的条件で重要なものは，農産物の市場規模が大きいか小さいか，そのためにどのような農産物出荷方法があるか，それが多様であるかどうかを考慮する必要がある．さらに，農外就業機会が多いか少ないかもにも注目しなければならない．社会的条件で重視されるのは，伝統的村落組織を残しており，強固な農家間の結びつきや密な人間的つきあいが残っており，そのことが地域農業の存続・発展にかかわってきたかどうかということである．逆に都市化や混住化が進み，新しいコミュニティのなかにあることを活かすことができる場合もある．歴史・文化的条件では，農業地域が中世以前に成立した古い集落なのか，藩政期の新田集落か，明治期や第 2 次世界大戦後の開拓集落に起源をもつのかが注目される．農業地域の発展には，行政や政策の役割は大きいことは第 2 次世界大戦後の国の農業基本政策をみても明確である．地方自治体や農業協同組合の指導や支援も重要である．労働力不足が深刻ななかで，外国人技能実習制度による外国人労働者の存在は農業経営の継続に大きな役割を果たしている．また，相続税や生産緑地制度にも大きな影響を受けている．

都市域の生物多様性管理に関する研究（沼田真也，杉本興運，髙木悦郎）

都市の生物多様性がもたらす負の生態系サービス（ディスサービス）を明らかにするため，都市住民の生物や自然的景観に対する嗜好性やディスサービスに対する受容性について検討を進めている．本年度はシンガポールの都市住民の生物多様性への意識やディスサービスに対する受容性について分析を進め，論文として発表した．また，オランダ・ワーゲニンゲン大学が中心となって進めている野生生物価値定位（Wildlife Value Orientation）の国際共同研究に参画し，その成果を国際学会で発表した（Jacobs et al. 2018）．

狩猟者確保に向けた対策は有効か？狩猟参加における阻害要因の解明（沼田真也）

スポーツハンティングを行う際の阻害要因について研究を行った．その結果，自然レジャーに参加していた人のうち，スポーツハンティングを認知していたのは 77%，興味を持っていたのは 16%であった．そして，スポーツハンティングをの阻害要因として，時間，始め方，教えてくれる人，一緒に始める人，交通手段，狩猟免許試験の難易度が主な阻害要因となっていた．一方，自治体等は認知向上，狩猟免許取得援助，技術指導に関する取り組みを行っていたが，「時間がないこと」，「一緒に始めてくれる人がいないこと」，「交通手段がないこと」に対応する取り組みはなかった（大塚伊織　修士論文）．

熱帯雨林の野生生物観光（沼田真也，髙木悦郎）

熱帯雨林を保全するための手段の一つとして観光に注目が集まっているが，その魅力を伝えることが課題となっている．観光客の多くは野生生物観察に対する関心や期待は大きいものの，通常，熱帯雨林では野生生物は密度が低く，夜行性のものが多いため，観察するのは簡単ではない．そのため，野生生物と観光客との接点は小さく，野生生物観光としての満足度はあまり高くない．そこで，東南アジア熱帯雨林において，野生生物の生態学的研究手法を活用した観光アトラクションプログラム（バーチャルハンティングプログラム：VH）の開発を進めている．2018 年度はマレーシアのエンダウロンピン国立公園において野生生物の撮影，ガイドの自然体験に関する調査を行った．

自然の恵み「生態系サービス」の視覚化，定量に向けた研究（大澤 剛士）

自然環境，半自然環境から得られる人間への利益を「生態系サービス」という．生態系サービスには既に人間が認識し，積極的に利用しているものから，いまだ人間が気づいていない潜在的なものまで多種多様なものがあると考えられている．これら生態系サービスについて，潜在的な価値の捕捉，認識されながらも定量評価がなされていないサービスの定量化に向けた検討を行っている．本年は，非利用的価値と呼ばれる非物質的なサービス「文化的サービス」に着目し，無形のものをどのように定量化し，その有無，多寡を評価するかについて検討を行った．

外来生物の管理に関する研究（大澤 剛士）

国際貿易の発展等に伴い，現在，日本には意図的，非意図的に人間によって国外から持ち込まれた生物が多数生息している．世界自然遺産として国際的に知られる小笠原諸島も，観光客の増加をはじめとする人間活動の活発化に伴い，外来生物による様々な被害が顕在化している地域である．これら外来生物による被害を定量把握するとともに，対象種の駆除を含めた適切な管理手法を提案することを目的とした研究に取り組んでいる．本年度は，ノヤギによって大規模に破壊された無人島において，ノヤギを根絶した後にも，ヤギによってもたらされた裸地化および土壌の流出が植生の回復を妨げていることを明らかにした（Hata et al. 2019）．

小笠原諸島におけるノヤギによる裸地化および土壌の流出の様子

自然史資料に基づく生物多様性情報学（大澤 剛士）

標本や観察情報，市民参加型調査等，必ずしも厳密な調査デザインに基づいて取得されたわけではない各種自然史資料の収集，整理，さらには有効な利用方法についての検討を行っている．この一つの有効は手法として，コンピューターシミュレーションによって生物個体群等の動態を再現し，不完全な実データによって検証を行うというバーチャル・エコロジー・アプローチを様々な生態系，生物に適用している．本年は，農業害虫であるアカスジカスミカメムシを対象に，気象パラメータを利用した生活史シミュレーションによって年世代数，発生のタイミングを推定し，時系列の分布データと組み合わせることで，近年の気候変動が対象種の分布拡大をもたらしている可能性を提示した（Osawa et al. 2018）.

観光行動動態の解析および地理的可視化の方法論構築に関する一連の研究（杉本興運）

観光行動の動態を時間的・空間的に分析し，観光現象の一端を解明し，その知見を観光インパクト評価や観光マーケティングなどへ活用することを目的とした一連の研究を行った．まず，パーソントリップデータが詳細化された大規模人流データによって，都市圏スケールにおける観光行動動態を分析し，一日の活動時間配分，都市圏構造との関係，夜間での空間選択についての分析を行った．また，自治体と連携して GPS ロガーと質問紙を組み合わせた調査を実施し，観光地内の出発地点によって観光客の空間消費や移動性がどのように異なるか，また，移動パターンがどのような環境的要因によって誘発されるのかを分析した．その他，ボランタリー地理情報データを使った観光行動の分析の可能性を，北海道におけるサイクルツーリストを事例に検討した.

都市観光地の再構築にむけた地域動態・観光動態に関する総合的研究（杉本興運，太田慧，鈴木祥平，菊地俊夫）

大都市内部の観光地は，都市住民という巨大市場を背景に，その需要に対応することで安定した観光地経営の基盤を築いてきた．しかし，都市開発，競合地域の成長，住民の世帯交代や人口移動，流行，国際化の進展による訪日外国人増加などの諸要因による都市構造の変化に伴い，都市観光地としての様相や求められる魅力が刻々と変化し，様々な課題が浮上しているのもまた事実である．本研究プロジェクトでは，東京都の上野地域を事例に，今後の上野地域の再構築を進めるための戦略立案に必要な地域動態・観光動態に関する総合的研究を実施している．2018 年度は，これまでの研究結果をまとめ，それらを上野地域の年史および一般向け書籍として発表するための執筆作業を進めた．その他，訪問者による回遊性の評価や観光イベントの評価に関する事業も進めた.

国際都市における MICE 戦略と基盤整備の動向に関する研究（杉本興運，菊地俊夫）

世界の都市間競争が激化する中，MICE の誘致が都市の国際競争力を強化するための重要な施策としてみなされるようになった．Convention 分野に着目すると，東京の国際会議の開催件数は年々増加しているが，シンガポールやブリュッセルといったさらに上位の競合都市との差は歴然としている．今後の東京の MICE 誘致力強化のためには，組織や人材面での対策に加え，MICE に適した都市基盤構築やアフターコンベンションでの観光ツアーのための地域連携強化といった空間面での対策が必要である．本研究では特に空間面に着目し，東京 MICE 戦略のための効果的な空間活用方策を提言するための基礎調査を実施している．2018 年度は，東京に関する調査を深め，論文として投稿する準備を進めた．数年間継続している MICE の社会人向け講座での講義も行った.

若者の観光行動と地域受容基盤に関する研究（杉本興運，太田慧）

地理学や観光学を専門とする 9 名の若手研究者からなる研究グループを組織し，大都市を中心とした若者の観光行動と地域受容基盤を明らかにするためのプロジェクトを進めた．研究目的達成のために，１）若者がライフステージの各段階で経験し得る観光形態の整理，２）若者の観光行動や空間認識および活動領域の把握，３）若者を対象とした観光ビジネスや地域づくりの現状把握を行っている．2018 年度は研究の社会発信に重点をおき，主に次の 3 つの活動を展開した．まず，これまでの研究成果の一部を６件の論文記事としてまとめ商業誌に投稿した．また，首都大学東京のオープンユニバーシティにて社会人向け講座を開催し，計１０回の講義を行った．そして，最後に大手広告系企業の若者研究部門と研究に関する意見交換会を実施した．研究調査に関しては，東京の若者観光市場の形成要因を人口地理学的視点から捉え，「なぜ若者が東京に集まるのか？」という若者の人口移動の意思決定を明らかにするための大規模アンケート調査を行った.

昆虫の個体群動態と観光の関係（高木悦郎）

昆虫は，膨大な種数，個体数，および生物量を誇り，地球上のあらゆる地域に生息し，生態系において様々な重要な役割を担っている．また，世界中で一般的に認知度や好感度の低い生物であり，日本を除いて観光対象となることはほとんどない.

昆虫が持つ特徴の一つに，高い生態系エンジニアリング能がある．様々な昆虫が，劇的に生態系を変化させる．最近，この昆虫の生態系エンジニアリング能による生態系改変が，人間に与える文化的影響が注目されつつある．しかし，観光に及ぼす影響に関する知見はほぼない．本研究課題では，特に，昆虫の生態系エンジニアリング能に注目して，1）昆虫が大発生する要因，および 2）昆虫の大発生が起こった際に観光に及ぼす影響を明らかにすることを目的として，野外調査，野外実験，および室内実験を行っている．今年度は，ロシアを中心に森林に大きな被害を及ぼしているキクイムシ類の 1 種の生態学的新知見を明らかにした.

東京湾におけるナイトクルーズの展開と地域需要基盤（太田 慧）

近年，日本におけるクルーズ需要は高まっており，都市におけるナイトクルーズも都市観光におけるナイトライフの充実を図るうえで重要な観光アトラクションとなっている．本研究課題では，東京におけるナイトクルーズをとりあげ，その歴史と現在の傾向について整理し，ナイトクルーズの集客戦略の変化と利用特性を明らかにすることを目的としている.

本研究では，1950 年に創業した歴史あるナイトクルーズを例

として，ナイトクルーズの集客戦略，乗船客の傾向，ナイトクルーズと臨海部再開発との関連の3つについて調査した．さらに，2020年の東京オリンピック・パラリンピックにむけて再開発が進む東京臨海部全体の状況を概観し，東京におけるナイトクルーズと東京臨海部の今後の展望を検討した．

日本の大学における交換留学生の観光動機（ラナウィーラゲ　エランガ）

日本における留学生数は増え続けてており，留学生による日本国内観光活動も拡大傾向にある．本研究は首都大学東京のAIMS交換留学プログラムに参加したマレーシア人留学生を事例に，交換留学生による旅行意思決定に影響する観光動機をプッシュ誘因とプル誘因の概念を用いて分析した．結果として，マレーシア人留学生が旅行するかどうかを決定するプッシュ誘因とプル誘因を特定することができた．加えて，これらのプッシュ誘因とプル誘因の相関も見られた．本研究の結果はマレーシア人留学生の旅行市場に対するニーズを理解するために役に立つ．

2．2　地域計画・マネジメント領域

国や都市・地域における観光振興の政策立案に資する研究（清水哲夫，片桐由希子）

国や都市・地域の観光振興に必要となる政策を提言するための基礎研究を複数実施した．第一に，ネパールのヘルスツーリズムの競争力を高める政策を提言することを目的に，観光客のニーズと供給側の戦略に関する意識・インタビュー調査を実施し，将来想定されるニーズとサービスギャップを明らかにした．第二に，バンコクを事例に，政治的混乱が観光客の訪問・再訪意向に及ぼす要因を抽出し，政府や反体制勢力が行うべき対策について提言した．第三に，日本の地方にインバウンド観光客を誘致するために必要な政策を提言するために，主要国籍による地方の延べ宿泊者数を規定する要因を統計的に明らかにした．第四に，紅葉シーズンの高尾山を対象に，資源空間やアクセス経路における混雑感が満足度に及ぼす影響を把握し，満足を低下させないための施策を提言した．

ネパールのヘルスツーリズムステークホルダーへのインタビューの様子

地域観光振興に資する交通政策・施策に関する研究（清水哲夫，片桐由希子）

観光振興を目的とした地域交通サービス展開に必要な政策や施策を提言する基礎研究を複数実施した．第一に，オースティン市を対象に，都市総合モビリティ戦略の中でのシェアバイクシステムのあり方を提言するために，大規模イベント時の利用特性をグループ利用の観点から詳細に分析した．第二に，バリ島を事例に，外国人観光客によるドライブ観光の戦略的重要性を明らかにし，道路交通における観光客と地元住民のコンフリクトの要因と明らかにするとともに，その解消に向けた施策を提言した．第三に，新潟県魚沼地域を事例に，訪問先での活動内容が二次交通サービスへの支払意思額に与える影響を定量的に分析する方法を提案した．第四に，新潟県上越地域を対象に，新幹線開通前後での地域公共交通のサービス水準評価変化を，心理的および物理的な側面から明らかにした．

オースティン市のドック式シェアバイクシステム

我が国の観光統計の改善に資する研究（清水哲夫）

我が国の観光統計が地域による観光施策の実施・評価に使い勝手が悪いという批判を受け，その課題解決のために統計整備手法の改善の方向性を提言した．はじめに，地域観光組織による観光統計・データの活用状況について網羅的に調査し，多くの組織でデータマネジメントレベルが低いことを実証した．次に，宿泊旅行統計調査を事例に，表章単位を現在の都道府県よりも狭い市町村や観光圏に設定した場合の統計値精度について検証を行った．次に，宿泊旅行統計における位置情報ビッグデータの代替可能性について検証を行った．以上の成果を取りまとめ，今後の宿泊旅行統計調査の改善戦略に関する提言を行った．

我が国における社会人向け観光経営人材育成講座の開発に関する研究（清水哲夫 平田徳恵 直井岳人）

地域や産業での観光振興の担い手を育成するための教育プログラムを体系的に開発するために，社会人を対象とした観光経営人材育成教育プログラムの国内外での実施状況を，文献調査やインタビュー調査を通じて網羅的に把握した．次に，一部の教育プログラムが実施した受講生や提供主体に対するアンケート・ヒアリング調査データを解析し，今後の課題を抽出した．その上で，我

ベネチア国立大学での観光経営人材育成に関するインタビューの様子

が国で展開すべき社会人向け観光経営人材育成講座について，観光人材タイプ別の体系を提示するとともに，いくつかのタイプに対応した標準カリキュラムの試案を提示した．

地域観光プランニング：観光まちづくりの計画技術の体系化研究（川原晋，岡村 祐）

観光まちづくりの計画技術の体系化をめざして，日本建築学会の小委員会として活動している研究である．行政の観光計画の対象がハードからソフト中心となっている状況に対して，より質の高い観光「エリア」を作っていくための景観や公共空間の魅力化といったハードと，観光コンテンツの開発などのソフトが連動した計画論をめざしている．それぞれに関わる先進事例の調査をもとに，従来の観光計画や都市計画・まちづくりとの関係のなかでポジショニングを行いつつ，手法の要点を整理している．具体的には，観光の基盤である地区スケールで環境・空間改善や，観光行動を行う地理的・空間的環境の中で観光資源をとらえることを重視し，ハードとソフトコンテンツの両輪を計画・整備・管理していくための調査方法，計画・ビジョンのつくり方，組織の作り方，プロセスデザイン，社会実験を通しての事業化，モニタリング，持続的な観光のための制度等の手法である．

今年度は，観光地の持続性のための手法として，観光地の質や環境を認証する制度の事例研究や，居住者や潜在的観光事業者，従業員といった非観光者向けも含む観光まちづくりの情報発信のあり方について事例研究を行い，地域観光プランニングのプロセスデザインと要点を更新した．

地域観光プランニングカレッジ：観光まちづくり人材教育プログラムの開発（川原晋，岡村 祐）

地域観光プランニングの方法論を体験的に学ぶ，全国の学生を対象とした「地域観光プランニングカレッジ」を企画し，7～9月にかけて実施した．本カレッジの2回めの実施フィールドは，外国資本のホテルやコンドミニアムの参入やインバウンドの影響を受け，環境変容の著しい北海道ニセコ地域である．研究者，実務家からなる共同研究者13名，学生12名，地元住民や事業者約25名が参加した．プログラムは，事前調査課題（Webゼミ）＋合宿型ワークショップからなる．その特徴は，1）事前調査課題と合宿期間の現地調査を通して，多様な関係者が一緒に参画したいと思える空間像や活動像を表現する「仮の将来ビジョン」を描くこと．2）地域の多くのキーパーソンとの懇談を通して，その地域の人材の特徴を活かしたチームメイキングや事業提案，進め方を考える「人材指向型の計画アプローチ」で，「主体の見えるプロジェクトの提案」をすること，3）仮の将来ビジョンを実現するための可能性や課題を洗い出すための，期間限定の「社会実験」を提案すること，である．

地域観光プランニングカレッジ

長門湯本温泉 観光まちづくりを支える景観ガイドラインの策定（川原晋 ）

山口県長門市に位置する長門湯本温泉の再生のために，長門市が星野リゾートの協力を得て2016年8月に策定した「長門湯本温泉観光まちづくり計画」を民間事業者，地域，行政が強く連携して実現していくためのプロジェクトである．地域観光プランニングの考えに基づく計画策定や事業推進に取り組んでいる．150年の歴史を誇る老舗ホテルの倒産などにより遊休地が多くみられる閑散とした現状から，人気温泉地ランキングで全国10位以内に引き上げることを目標に掲げている．その取組の一つとして観光地再生を強く意識した先進的な「長門湯本温泉景観ガイドライン」を策定した．その特徴は，1）河川や道路空間などの公共空間や，民地の地先空間の積極的な活用による観光地再生を支える景観ガイドラインであること，2）良質な景観がまだないところ

で，迅速に作っていくための社会実験イベントとの連携による将来像の見える化や，地元の設計・施工者施工者ワークショップの導入による担い形成，押しかけ提案（空き家調査とリノベーション提案と合わせた景観整備モデル事例の推進）を連動させていること，3）すぐの効果が出しやすく街の特徴を引き出し宿泊を促す，夜間景観の積極的形成をねらっていること，4）今後民間投資を誘発するタイミングで，良質な投資事業には心強く，長門湯本らしさを欠く投資事業には歯止めになることを狙ったこと，5）現代の観光者のニーズである交流への期待に対応して，民間敷地や民間活用公共空間でのホスピタリティ（表現）の向上や演出のアイデアを盛り込んでいること，である．

2018 年度は，本ガイドラインの法的拘束力を持たせるため，景観法に基づき行政が運用する重点地区指定や，民間が運用する景観協定の締結にむけた合意形成を進めた．

詳細は http://yumoto-mirai.jp

観光まちづくりオーラルヒストリー研究（高尾山地区 観光地マネジメントプロジェクト）（川原晋，野田満，清水哲夫）

世界一の登山客数である高尾山エリアに置いて観光の負のインパクトを軽減し，観光地だからこそ可能な，観光者との交流によるまちの活性化や定住者発掘，まちづくり資金を稼いで環境改善を進める等を目指す観光まちづくりプロジェクトである．2018 年度は，行政や民間事業者が多様な事業を推進している本地区において，地元住民等の取り組みや想いを関係者で共有するため，観光まちづくりオーラルヒストリー調査を行った．オーラルヒストリーとは文献から歴史を推察するのでなく，地域住民や関係者からの聞き取りによって得られた証言をデータソースとし，それらを整理，統合することによって歴史を紡ぎ出す方法である．本研究では，観光地域づくりの推進に資する編集方法や成果物の作成までを一連の手法としてパッケージ化することを意図した．観光の季節変動と資源との関係をみる「フェノロジーカレンダー（歳時記）」や「個人史からつむぐ高尾山年表」や「個人史に関連付けた地域資源マップ」などである．本調査結果は，高尾山口駅前の河川護岸改修と隣接公園の整備計画ワークショップで活用され，報告冊子は「高尾山口駅及び参道周辺整備計画」付録編として行政文書にも位置づけられた．

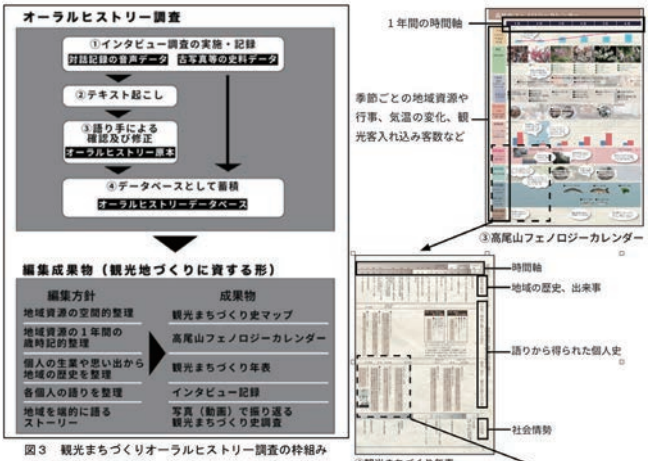


図３　観光まちづくりオーラルヒストリー調査の枠組み

高尾山 観光まちづくりオーラルヒストリー

高尾山地区 観光地マネジメントプロジェクトとしては，その他に，まちづくり資金の取得に向けた付加価値導入による有料駐車場の xa 支払い意思額の特性分析なども進めた．

里山再生コミュニティ形成をめざす開発住宅地のエリアマネジメント（川原晋）

東京都稲城市の約 3000 戸規模の土地区画整理事業による大規模住宅地開発にあたり，現代の都市生活で使う山としての里山再生と，新旧居住者のコミュニティ形成を支援するプロジェクトである．2014 年度に川原研が企画・運営を支援した活動拠点施設の計画ワークショップを通して組織化された「エリアマネジメント南山」には，当初のメンバーの農家地権者，都市プランナー，グラフィックデザイナー，里山保全活用活動者などに加え，新規入居住民有志が参画している．2018 年度は，コミュニティサークルの豊富化をめざしたアンケート調査を行い，現在の活動の満足度と，今後のコミュニティ活動（環境作りや趣味の活動）についてのニーズを把握した．里山再生やコミュニティ形成にむけてどのような活動支援の内容やプロセスが望ましいかについて，他の住宅地のエリアマネジメントの事例調査と比較しつつ実践と研究を進めている．

大田クリエイティブタウンの構想と実践（岡村祐，川原晋）

大田区は世界に負けない技術を誇るモノづくりと豊かで楽しい暮らしが重なり合うまち．地域自ら持続的に価値を育む「クリエイティブタウン」という将来像実現に向けて，大学（首都大学東京，横浜国立大学）や地元工業者等が中心となり 2017 年 4 月に（一社）おおたクリエイティブタウンセンターを設立した．これをプラットフォームとして各種プロジェクトを展開している．具体的には，期間限定で工場を一斉公開する「おおたオープンファクトリー」の企画や多様な地域活動の拠点として空工場をリノベーションした「くりらぼ多摩川」の運営を行った．これらに加え，さらに，クリエイティブネットワーク，モノづくりマッチング，モノづくり観光，モノづくりのまちづくりなど，新規事業の実施に向けて検討を行っている．なお，本研究は，科学研究費基盤研究（C）「地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究」を受けて実施し，その成果として，「モノ・マチ BOOK2018」を発行した．

東京モノレールまつり会場でのおおたオープンファクトリー紹介ブース

都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性（岡村祐，片桐由希子）

本研究は，「散策路事業（＝散策路の整備・設定や，まち歩きイベントの開催）」が，健康，レクリエーション，モビリティ等，散策する市民のライフスタイルの変化から生み出されるプッシュ要因と，郊外・行楽地開発，自然・文化資源の保全活用，コミュニティ形成等，来訪者を受け入れる地域側が期待する環境形成につながるプル要因から成り立つという仮説のもと，第一に，「散策路事業」の通史研究（時代区分と各時代の特徴解明），第二に，特定地域における散策路事業の事例研究，第三に，「暮らし体験型散策路」の計画提案・実践・評価を研究課題として掲げている．

本年度は，東京西郊多摩地域を通過する野猿峠コース（約13km）を対象として，その開発・活用の歴史的変遷を明らかにした．くわえて，大学の演習プログラムを経て提案された散策路の提案（すなわち，アウトレットモール来訪者に，周辺のニュータウン・里山を周遊してもらうためのテーマ・コースの提案）を受けて，アウトレットモール運営会社と産学連携の体制を組み，協働で企画を実践する計画を進めた．なお，本研究は，科学研究費基盤研究（C）の助成を受けて実施した．

野猿峠コースの様子（柵の左側は多摩動物公園）

ギリシャにおける伝統的集落の保存・再生事業と『強い』観光地形成（岡村祐）

近年，ギリシャは厳しい経済危機に直面しているものの，観光デスティネーションとしての人気には陰りがない．とくに，エーゲ海中央部にキクラデス諸島のサントリーニ島では，カルデラ地形の斜面に発展してきた伝統的集落内の古民家（群）を中小規模のホテルなどに転用した観光地域が形成されている．本研究では，サントリーニ島の地域特性を反映させた「伝統的集落保存法」や，現地で長年活動している建築家の取り組みなどに焦点を当てて，歴史的環境保全と観光振興の共存の方法を探求している．

茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群における遺跡まちづくりの実践（岡村祐）

茅ヶ崎市北西部に位置する「下寺尾官衙遺跡群」は，約1300年前の郡役所，寺院，祭祀場，川津（港）の痕跡が確認されている貴重な遺跡である．これを対象に，将来的な史跡公園の整備に向けて，遺跡展示に関する複数の選択肢（AR，模型，フラッグによる平面表示，ツアーでの解説）を提案・実践し，各方法に対して来訪者から評価を得ることを目的とした社会実験（11/24-25）を実施した．大成建設自然・歴史環境基金からの活動助成を獲得し，体制としては，首都大学東京，アーバンデザインセンター・茅ヶ崎及び茅ヶ崎市社会教育課が協働し企画に当たった．地域の関心は高く，ローカル紙には数多く取り上げられ，2日間で132名が参加した．このほか，地域の遺跡への思いや遺跡地の近過去・魅力を解明するために，遺跡に関係する地元住民へのインタビュー調査を実施している．

遺跡展示手法の社会実験（茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群）

都立谷中霊園の管理と緑の変化，観光対象としての評価（片桐由希子，清水哲夫）

寺院や霊園は，景観や防災面からも貴重なオープンスペースであるが，社会状況の変化により寺院や霊園のあり方が変化し，まちの環境や景観にも影響が出ている．本研究では，寺院境内や墓地の緑がまちに提供するサービス（公益的効果）を把握，その変化がまちに与える影響を明らかにし，歴史的地域における緑地の保全の手法や制度検討に資する知見を得ることを目的とした．

本年は特に区部霊園の緑のマネジメント手法の検討に向けた基礎調査として，霊園再生事業の開始前後の樹木の存続の状況，管理関係者へのヒアリング，観光客や住民など利用者が霊園の緑に

花見時期の谷中霊園の様子

対して持つ印象についてのアンケートを実施した．成果については，谷中地区まちづくり協議会など，地域のまちづくりの場での報告を行なっている．なお本研究は，本学傾斜的研究費（部局分・若手奨励経費）の助成を受けて実施した．（協力学生：鳥山昇吾）

全国都市緑化フェアの効果とイベントレガシーとしての評価の視点（片桐由希子）

全国都市緑化フェアは緑のまちづくりへの継続的な効果を得ることを狙いとした，1983 年から続く自治体持ち回り式のイベント事業である．本研究では，過去に緑化フェアを開催した 9 都市の担当者へのヒアリング調査を通じて，緑化フェアの実施による効果とイベントレガシーとしての定着を把握した上で，その評価の視点を整理した．

緑化フェアのレガシーと明確に評価されたのは，会場である都市公園を中心とした公園の利活用の促進，緑化活動の活性化と人材育成に関する事業・制度，関係組織の設立や活性化であり，シティープロモーションの効果も認識されていた．緑化フェアが多様な立場の主体にとっての社会実装の場として，都市における緑の可能性を見出す機会となるためには，前後を知る担当者が実感する状況の変化や，他業種の事業者の視点での経済的な効果など，分野を横断し共有するための評価が求められる．

なお，本研究は，科学研究費若手研究（B）「都市郊外部における公園緑地の管理運営に関する評価指標の設定と評価システムの構築」を受けて実施した．（協力学生：中村優里）

全国緑化フェアが行われた山口きらら博記念公園での視察・ヒアリング

観光地域振興における博物館の役割と担い手（片桐由希子，清水哲夫）

博物館の観光振興における役割が期待される一方，財源的な問題から公立博物館，特に歴史・民俗系の博物館において運営の見直しが求められる．本研究は，公立博物館を対象に，関連する政策・制度との比較，地域側の活用状況と博物館の事業の実態を整理し，観光振興において博物館に期待されている役割と博物館の対応の実態を明らかにし，観光振興に対して博物館の持つリソースが活かされる仕組みを検討するための基礎的な知見を得ることを目的とした．

専門職員の育成と博物館の観光振興に関する制度や政策をレビューした上で，地域の観光組織における博物館の活用，職員の活動を中心とした博物館事業と観光振興との関連性についてヒアリング調査を行い，それぞれの対応の状況について分析した．

なお，本研究は，科学研究費若手研究（B）「都市郊外部における公園緑地の管理運営に関する評価指標の設定と評価システムの構築」を受けて実施した．（協力学生：中嶋紀菜里）

長崎歴史文化博物館での視察

縮退都市における空地とグリーンインフラ適用策の戦略的展開（片桐由希子）

グリーンインフラという概念には多くの可能性と不確実性が包含される．本研究では，成熟・縮退傾向にある北米の都市を対象とし，空地・荒廃地等をグリーンインフラとして位置付ける展望と可能性について，加速化した空地群のマネジメントと，都市スケールのグリーンインフラ計画，敷地スケールのグリーンインフラ適用手法の視点から考察することで，日本での適用策整備に向けた課題の展望を見つけることを目標としている．

本年度は，デトロイト市を対象として，行政担当者および Erb Famiy Foundation，Detroit Future city の GSI（Geen Stormwater Ifrastractue）担当者へのヒアリングを実施し，昨年度に実施したフィラデルフィアへの調査も合わせ，空き地とグリーンインフラに関する管理・参加体制，プログラムの整理の役割等を考察した．なお，本研究は，科学研究萌芽的研究「縮退都市におけるグリーンインフラ適用策の戦略的展開に関する研究萌芽研究（代表：福岡孝則」を受けて実施した．

観光まちづくりと防災まちづくりの両立に向けた自治体間連携の可能性検証（野田満）

本研究は，平常時の自治体間連携である国内姉妹都市と，非常時の自治体間連携である災害時応援協定との相互補完をベースとした，圏域に依拠しない広域ネットワークによる自治体間連携の活用可能性についての検討を試みるものである．今年度は，過疎地域自治体の姉妹都市連携の担当セクションを対象としたアンケート調査を実施し，姉妹都市の提携状況や具体的な取り組み，自治体からみた評価，更なる自治体間連携のニーズ等について把握した．次年度はデータ分析に基づき，より実効性ある自治体間連携に向けた提言を取りまとめる予定である．

なお本研究は文科省科研費「過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究：今日的課題と活用プロセスの解明」による助

成を受けて行われたものである．

過疎山間集落における「記憶の収集」による食文化史の解明と今日的活用（野田満）

本研究は，過疎山間集落を対象に，伝統的食文化を集落住民の「暮らしの記憶の採集」によって解明すると共に，集落の持続的振興に向けた「食文化史」の今日的活用を検討するものである．今年度は，高知県いの町神谷北地区 5 集落を対象に，住民 59 名への聞き取り調査（オーラルヒストリー調査）を実施し，聞き取り内容のテキスト化及びその分類・再統合による「語りの分析」を行い，食文化を含む幅広いテーマを「集落史」として編纂した．次年度は「集落史」の共有を足掛かりに，集落の持続的振興に向けた，食文化の地域資源としての活用方法，及びその為の計画を地域づくりの実践を通して検討していく．

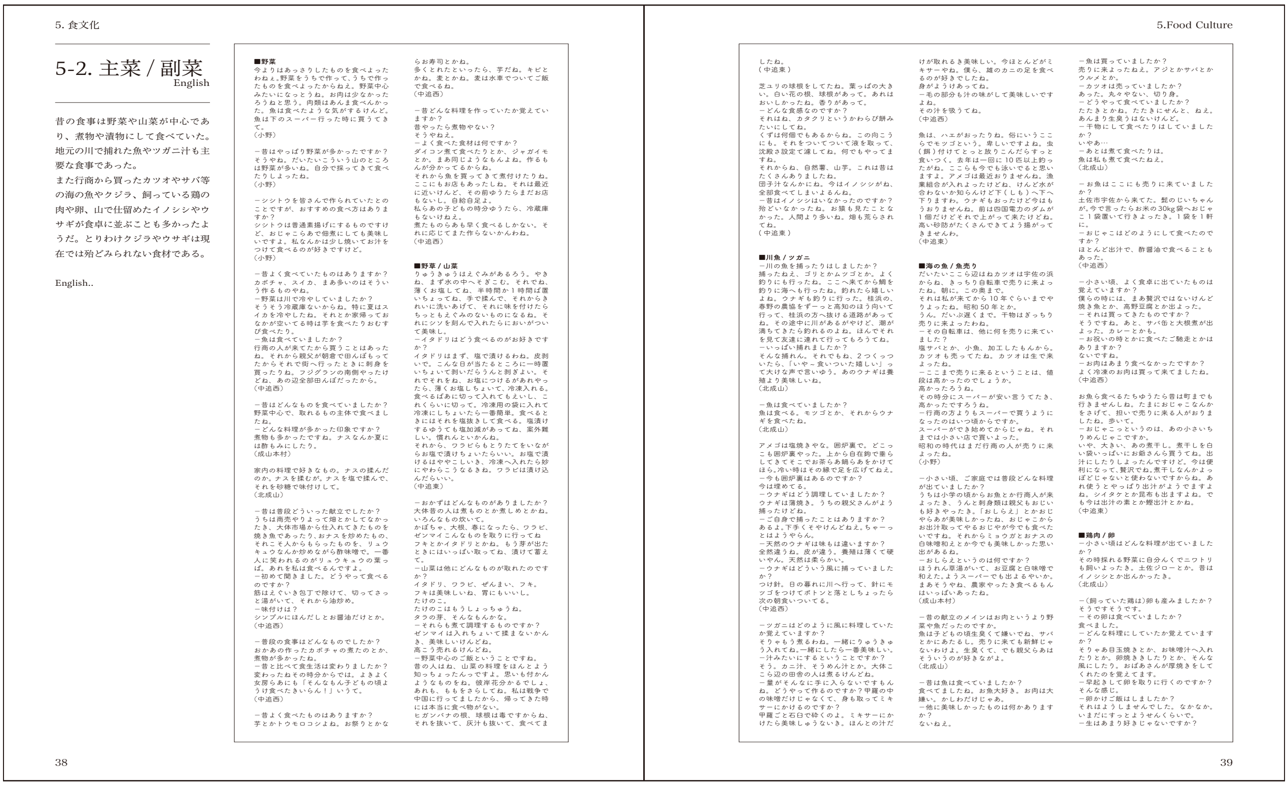
なお本研究は公益財団法人ロッテ財団「過疎山間集落の「記憶の採集」による食文化史の解明と今日的活用に関する実践的研究」による助成を受けて行われたものである．

淡路島ロングトレイル構想プロジェクトの全体統括を通した「観光むらづくり」の理論構築（野田満，川原晋）

本研究は，淡路島・洲本市竹原集落への継続的関与を通した企画調査及び実証実験によって，「定住人口の為の雇用創出」と「交流人口・関係人口の関与を前提とした集落の空間や慣習の維持管理」を併せ持った計画論としての「観光むらづくり」の理論的枠組みを提示することを目的としている．今年度は，独自のツールを用いたワークショップ手法の開発を通した地域プロモーションビデオの製作，及びトレイルと多分野のアクティビティとを組み合わせた来訪者向けイベントの実施を行うと共に，一連の取り組みを洲本市主催の「洲本市× 6 大学連携シンポジウム」で発表した．次年度も引き続き集落住民との協働を通して地域の持続的振興に貢献すると共に，プロジェクト成果の一般化，理論化に取り組む予定である．

なお本研究は公益財団法人トヨタ財団「林道の観光ポテンシャル調査：再び山と共に生きる為の里山資産の読み換え」及び首都

集落住民の出演参加による PV 撮影の様子



5. 食文化

5-2. 主菜 / 副菜
English

昔の食事は野菜や山菜が中心であり、煮物や漬物にして食べていた。地元の川で捕れた魚やツガニ汁も主要な食事であった。
また行商から買ったカツオやサバ等の海の魚やクジラ、飼っている鶏の肉や卵、山で仕留めたイノシシやウサギが食卓に並ぶことも多かったようだ。とりわけクジラやウサギは現在では殆どみられない食材である。

English..

■野菜

■野草 / 山菜

■川魚 / ツガニ

■海の魚 / 魚売り

■鶏肉 / 卵

38

5.Food Culture

39

いの町神谷北地区 5 集落の集落史抜粋

大学東京傾斜的研究費「アクションリサーチに基づく「観光むらづくり」のプロセスモデルの提案」による助成を受けて行われたものである.

フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法（古川尚彬，川原晋）

当該研究は，ユネスコ世界遺産に登録されているベトナム・フエ歴代皇帝陵を対象に，その歴史的環境保全に関与する周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメントのあり方について模索するものである．当該地域の文化的景観や水利システムといった地域資源を適正な形で現代社会の中で保全・活用し，持続可能な地域開発につなげていくためのマネジメント計画を地元行政へ提案した．単なる開発規制によって景観を規制するのではなく，地域のステークホルダーとの協働によって，景観を保全・再生，管理していく手法の確立が求められる中，同マネジメント計画案を実現していく方策の一つとしてエコスタディツアーを地域の中で実装させるための取り組みを行なった.

具体的には，初代皇帝の陵墓「嘉隆帝陵」と一体として計画された周辺環境にある魅力を味わってもらう仕掛けを用意したスタディツアー（日本語ガイド，英語ガイド）を外国人旅行者向けに実施した. そこには現地の観光局や旅行会社にも参加してもらい，多主体が参加するコミュニティツーリズムの運営モデルのあり方についても検討することができた.

尚，当該研究は，科研費基盤研究（B）『フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法』の一環として実施したものである.

エコスタディーツアーの様子

エコスタディツアーのうちわ型マップとガイドブック

持続可能な観光地づくりのための観光政策立案実践人材の把握（平田徳恵）

持続的な観光まちづくりには，観光経営と地域づくり・地域資源マネジメントを両輪で連携しながらの実践が必要と考える．自治体や地域の事業者などの多主体で，各地の地域創生を実現していく官民協働での観光まちづくりを進めるためには，地域の自治体内に適切な重要目標達成指標（KGI）/ 重要業績評価指標（KPI）設定やこれらとの整合性のある施策および事業立案のできる知識を持つ観光政策立案実践人材が必要となるとの仮説のもと，まずは，東京都の自治体状況を把握のうえで，指標に関わるデータ教育プログラムを開発・試行した．今後，観光関連政策に関わる自治体職員に必要となるスキルを把握するため，特徴的な観光関連政策立案に関わった人材にインタビュー調査を行い，キーパーソンのキャリアパスを把握する．最終的に観光政策立案実践人材のための教育プログラムの提案に向け研究を進めている.

なお，本研究は科研費若手研究を受け実施した.

地域創生事業立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの開発と実践（平田徳恵，清水哲夫，川原晋，岡村祐）

多摩地域の自治体職員の情報処理や地方創生の政策立案能力の向上を目的とした研修プログラム「地域創生スクール」を設立し，自治体職員が修得すべき能力および課題について研究を行った．開催した地域創生スクールでは，成果および修得すべき能力として，4 つのデータ力，これらを高めるための 5 つの技術を設定し，カリキュラムを開発した．そのうえで，第 1 期，第 2 期において，各 11 名の東京都多摩地域の自治体職員の参加を得て，その効果や課題を検証した．その結果，体感的に理解できる内容でないと理解度が高くならないこと，演習やグループワーク時間増

研修プログラム「地域創生スクール」

加の要望が強いこと等を明らかにした．また地域経済分析システム（RESAS）の使用について，必要と考える自治体職員が多いが，自治体内での周知度は低く，多くの自治体では庁内で恒常的に使用できない等の課題があることが分かった．

持続的観光まちづくりを促すツールとしての環境認証に関する研究（平田徳恵，川原晋）

環境認証として最も古いエコラベルであるブルーフラッグを研究対象とし，ブルーフラッグによる持続可能な観光まちづくりへの貢献と課題を整理した. 持続可能な観光まちづくりのためには，観光の振興と環境保全, 地域社会のバランスが重要とされている．そこで，持続的観光地づくりの視点からブルーフラッグ認証発展の経緯について調査，さらにアジア初のブルーフラッグを取得した日本の 2 事例のキーパーソンに対するインタビュー調査を行った．その結果，ブルーフラッグ認証取得の目的はビーチの PR から地域による環境マネジメントのためまでと幅広く，ヨーロッパで始まったこのプログラムは次第に社会的側面を重視する方向に発展してきたことを把握した．さらに，地域側のブルーフラッグ取得の動機や認証取得に向けた地域の体制づくり，認証取得後の地域の巻き込み方や取組み等の相違により，ブルーフラッグ認証の観光地としての地域における貢献の内容が異なることを明らかにした．なお，本研究は科研費若手研究を受け実施した．協力学生：小出さくら

ブルーフラッグ認証を受けた福井県若狭和田ビーチ

研究者による住まい・まちづくりの専門的知識を一般市民と共有する取り組み（平田徳恵）

日本建築学会における住まい・まちづくり支援建築会議情報事業部会では，住まいやまちづくりに関わる活動を支援し , 社会公共に寄与することを目的として , 市民が正確な知識を持ち，住まいやまちづくりに対する理解を深めるための情報普及活動に取り組んでいる．この活動において，研究者と一般市民の間の垣根を低くし，住まいやまちづくりに関する情報の共有ができるような仕組みづくりおよび情報公開を行ってきた.

今後，近年全国的に問題となっている空き家対策に関して，市民のみならず自治体の空き家対策担当者等へも有用となると考えられる情報公開のための内容や手法を検討していく.

2．3　行動・経営科学領域

CT-Planner を基盤とした観光地分析ツール CT-Planalyzer の試験活用（倉田陽平）

東京大学人工物工学研究センター原辰徳研究室との共同研究により CT-Planner 内で一定の条件を満たす街歩きプランを大量生成し , これを地図上で重畳表示したり , プラン中に頻繁に登場する観光資源の組み合わせを表示したりすることによって , 想定される観光客の主要動線など観光地の可視的分析を可能とする観光地分析ツール CTPLanalyzer の開発を続行し , 原辰徳氏の主導により各地の IT 活用ワークショップで試験利用を進めた.

町歩きプラン作成支援ツール CT-Planner の改良（倉田陽平）

当研究室が開発してきたオンラインまちあるきプラン作成支援ツール CT-Planner のさらなる実用化と普及を進めるため , 常時 SSL 化を導入しスマートフォン版での現在地表示機能を実現した．また東京大学人工物工学研究センター原辰徳研究室とともに混雑情報を加味したプラン作成支援などの試験的改良に取り組んだ.

潜在的訪問客の火山観光地訪問回避モデルに情報介入が及ぼす影響（直井岳人）

本研究では，リスクコミュニケーションの観点から，リスク認知研究で扱われている「SARF」,「DPM」,「反転理論」を統合したフレームワークに基づき，潜在的訪問客の噴火報道後の火山観光地訪問回避モデルと，住民の反応・認識に関する情報介入の影響を検証することを目的とする．624 名の被験者を対象に Web アンケート調査を行った結果，本研究で定めた訪問回避モデルの妥当性が示され，情報介入の潜在的訪問客の訪問回避抑制のための方策としての有効性が示唆された．また，観光研究における魅力とリスクの表裏一体の関係性を再考し，リスク認知研究において非日常的魅力を考慮する必要性が示唆された．以上の点で，本研究は観光研究及びリスク認知研究に対して学術的な貢献をしたと考えられる．本研究は昨年度まで直井が指導した博士前期課程の 中俣良太が主担当となる共同研究で，2019 年度 6 月に海外での学会発表（TTRA）が決まっている.

歴史的町並みにおける外国人観光客・住民間交流と地域理解促進の関係の類型化（直井岳人）

科学研究費基盤 C の研究課題であり，昨年度が最終年度であった．過年度の川越市一番街における東京の日本人学生と留学生に

よる店舗の印象評定調査の結果，外観の開放性が，店舗の全体的好ましさの評定に対して，日本人被検者の場合は正の，留学生被験者の場合は負の影響を与えるという逆の傾向が示され，那覇市国際通り周辺商店街での，東京の大学生及び地元の県外出身観光事業者を対象とした印象評定調査では，店員の親近感と関係する地元感が購買意欲を高めることが示唆された．その成果の一部を昨年度に査読付きの論文及び英語書籍チャプターとして発表した．今年度実施した，那覇市国際通り周辺商店街における，個人の先有傾向を組み込んだ訪問客対象の質問票調査では，地元感のある店舗が購買意向を高めることが示唆された．本研究は昨年度まで直井が指導した博士後期課程の学生との共同研究で，成果の一部は 上原明の博士論文として発表されている．

川越一番街の店舗（文化財指定）

思い出に残る観光経験の評価に対するガイドの有無と経験の自発性の影響（直井岳人）

観光者の Memorable Tourism Experience（MTE）に関する先行研究には観光経験の違いを勘案したものは見当たらない．本研究では，「経験時のツアーガイドの有無」及び「その経験の自発性の程度」が「MTE の評価」（その経験が MTE かという評価）に与える影響を明らかにすることを目的とする．日本人大学生・大学院生 194 名を対象とした Web アンケート調査の結果，同様の観光経験をしようという「行動意図」に対し，「制限のない楽しみ」及び「意味や学び」ができたという MTE の評価が正の，「新奇性のある経験」及び「地元の人や文化とのふれあい」ができたという MTE の評価が負の影響を持つことが示された．また，ガイドなし観光において自発性の高い観光経験が「制限のない楽しみ」の経験を促進し，行動意図を強めることが示された．本研究は昨年度まで直井が指導した学士課程の五十嵐鮎夏が主担当となる共同研究である．

店舗看板における方言使用が潜在的観光客の看板の印象評価と広告興味・入店意向に及ぼす影響（直井岳人）

本研究では，広告・観光・方言の 3 分野の知見を援用し，観光地における店舗看板における方言使用が，潜在的観光客の看板に対する印象と，広告興味，入店意向に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした．対象地と対象方言は，沖縄県那覇市および市場本通り，沖縄方言とした．被験者 648 名を 3 条件（方言 2 種，標準語を使用）の店舗看板の画像を評価させる群に分け，Web アンケート調査を行った結果，聞き覚えのある方言の場合に「親近感」が「看板興味」と「入店意向」に及ぼす正の影響がより強くなるという結果が得られ，潜在的観光客にとって馴染みのない方言よりも馴染みのある方言を用いる方が「入店意向」に繋がる可能性が示唆された．本研究は昨年度まで直井が指導した学士課程の村松美桜が主担当となる共同研究である．

市場本通り（那覇市）

観光・交通分野におけるリスク分配契約に関する研究（日原勝也）

航空会社と空港の関係のように，異業種の主体間の関係の中には，対立関係と協調関係が共存する複雑で多面的な構造を有するものがあり，契約理論，ゲーム理論等の観点から興味深い．我が国でも，地方空港が航空会社と路線収入のリスクを分配する契約例が現れ（能登空港搭乗率保証契約（2003 ～）等），国交省も，羽田空港の発着枠の配分において，地方路線向け発着枠配分につき，両者のリスクシェア等の協調内容を加味する事態も生じている（2012 年～）．空港のコンセッション契約においても，空港側と航空会社が需要変動リスクを共有する方式の着陸料を設定する例が生じてきている．

本研究は，空港と航空会社のリスク分配契約に関する先行研究を踏まえ，より一般的な状況へ分析の拡張を試るものである．2018 年度には，不完備契約理論等の視点から，旅客需要変動リスクを関係者間で，単純な線形の支払い方式によりシェアするリスク分配契約について，その最適な内容の分析結果を得た．

空港経営の効率性評価（日原勝也，小笠原悠）

空港は，交通ネットワークにおける起終点のインフラとしての役割に加え，近年，LCC の就航・進展，世界的な空港民営化（コンセッション）の進行，訪日外国人の増加等の環境変化により，空港内に商業施設を併設すること，DMO などの地域の観光振興主体と連携するなど多機能化・多面化が進展している．従来より，空港経営の効率性評価は，人流・物流を中心に，商業施設も含めた空港の経営効率性の分析がなされてきたが，我が国における空港の経営の効率性分析は，データ制約もあり非常に限定的である．

本研究においては，多機能化・多面化が進展する最近の空港の経営に関する効率性分析として，データ包絡分析 DEA（Data Envelopment Analysis），確率的フロンティア分析（Stochastic Frontier Analysis）などの手法を活用することにより，日本国内における空港全般についての効率性評価を試みる．協力学生：山城健悟

温泉地における客数増加の要因分析に関する研究（日原勝也，小笠原悠，鈴木祥平）

温泉浴の観光需要に与える影響は大きいが，温泉地の宿泊人員はピーク時のバブル期前後から 1,300 万人泊減少しており，宿泊施設数も大幅な減少傾向となっている．温泉地の低迷要因の指摘や再活性化に関する提言が数多くなされているが，現状の温泉地研究は各温泉地の取り組みを明らかにした定性的な研究が殆どで，地域間の比較が可能なオープンデータを用いて客数の増加に寄与する要素を定量的に明らかにした研究は限定的である．

本研究は，データ制約から従前十分に分析されていない市町村，特に，温泉地が位置する全国 85 市町村を対象として，入湯客・宿泊客の増加に繋がる要因について，推計データを用いた新たな定量的分析を試みる．観光地へのアクセス状況などの従来から議論されている要因に加え，最近増加している訪日外国人観光客に関する要因等も加え，温泉地所在の市町村レベルで，集客にとって有効な施策・要因について新たな知見の習得が期待される．協力学生：岡本直之

ふるさと納税における「返礼品」の現状とその特性についての研究（日原勝也，小笠原悠，鈴木祥平）

ふるさと納税制度は，現在，高額返礼品，地場産品の範囲等の問題で，制度の見直しがなされるなど大きな岐路に立たされている．他方，こうした状況の分析の出発点となる返礼品と寄付の関係については，定量的に分析した研究が非常に限定的で，客観的な研究が十分になされているとは言い難い．ふるさと納税制度をより良い内容とする議論に資するため，返礼品と寄付の関係を分析することは非常に重要である．

本研究は，こうした観点から，ふるさと納税の寄付先自治体を決める際，多くの人が利用している，ふるさと納税に関するインターネット上のサイトに着目し，そうしたサイト上における返礼品の掲載内容に関するデータを独自に収集した．そのデータに基づき，返礼品と寄付の関係について，定量的な分析を試みる．まず，返礼品の分類を行い，その分類ごとに，効果的な返礼品の種類，ふるさと納税の額との関係などに関する分析を行うことで，新たな知見が得られることが期待される．協力学生：関根佑輔

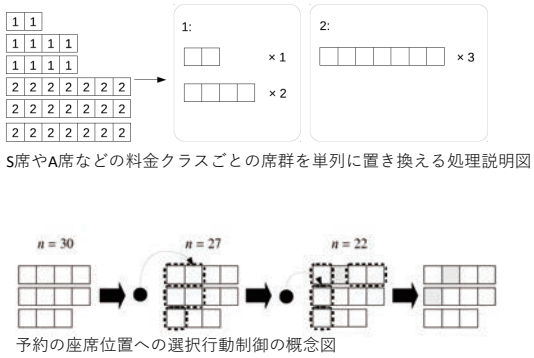
住宅宿泊事業法施行後の京都市における物件所有者の立場からみた民泊の実態に関する調査研究（日原勝也，小笠原悠）

本研究では，民泊関係の利害調整に多くの困難があるとされている，京都市 11 区を例にとり，2018 年秋時点の民泊関連市場の実態を調査．現実の Airbnb，LIFULL HOME'SY 等のリスティングデータに基づき，宿泊単価を取得・推計し，物件オーナーの収益性という視点から，住宅宿泊事業法適用上の住宅宿泊事業（新法民泊），旅館業法上の簡易宿所（簡易宿所），賃貸市場における賃貸について，比較を試みた．

その結果，11 区における平均的な収益性の分布に関する基礎資料が得られ，観光地・主要駅が多く立地する京都市上京区・中京区・下京区の都心 3 区の収益性が高いなどの結果が得られ，そうした状況を可視化した．また，民泊運営と賃貸との比較により，1DK までの比較的狭い物件において賃貸の方が収益額が大きく，1LDK 以上の比較的広い部屋においては，民泊の方が収益が大きいことなどが明らかとなった．協力学生：田中僚

サービス業における不確実性の下での意思決定手法の開発と解析（小笠原悠）

歌舞伎や映画館等の施設に向けた収益管理モデルの拡張及びその解法アルゴリズム開発と，シンボリックデータである区間値データに対する階層型クラスタリング手法と図示方法の新規手法開発を行った．収益管理モデルにおいては，座席位置情報と顧客の選択行動を考慮した場合，最適政策の近似解法は一般的に有効とされていた分解近似法ではなく，線形計画法を用いた手法が有効であることを示した．区間値データに対する階層型クラスタリング手法の開発では，従来のシンボリックデータを扱う際の一様分布の仮定を用いずに集合値として扱う新たな統計量と標準化方法を提案し，更に，その統計量を基にした新たな Ward 法を提案した．この手法では非類似度が区間値になることから従来の樹形図の作図方法は使用できないため，本研究では新たな樹形図として arrow- 樹形図を提案し，その樹形図を作成するパッケージの開発も合わせて行った．



予約管理における座席位置選択モデルに関する研究

地域創生と公共交通（戸崎肇）

連合総研が主催する研究会において主査を務めた．地域再生を推進する上で，公共交通が果たす役割とその現状，問題点につい

てヒアリング調査を行い，その成果を 2019 年度において公刊する予定である．

ビジネスジェットの日本における普及における研究（戸崎肇）

2020 年の東京オリンピック開催や 2019 年のラグビーワールドカップなど，今後日本に VIP がビジネスジェットを使って訪れる機会が激増する．しかし実情においてその受入環境は全く整っていない．今後どのように受け入れ環境の整備を行っていくかは，日本の成長戦略上, 極めて重要な課題である．この問題に対して，実現可能性を最重要視した上での研究を行った．

DMO および DMC（Destination Management/Markting Organization and Company）に関する研究（阿曽真紀子，高澤由美，辻野啓一）

昨年度からの継続研究である．今年度は，日本版 DMO とハワイの DMO である HTA（Hawaii Tourism Authority）のマーケティング活動を比較検討した．特に日本版 DMO が注力している「稼ぐ力」について，HTA の「住民の生活の質の向上に貢献する」という目標を掲げインターナル・マーケティング活動を盛んに行なっていることに注目し，この活動が住民の愛着を醸成し「稼ぐ力」を育てていると考えられた．そのため, HTA を事例にインターナル・マーケティングの展開やシビックプライドの醸成について分析を行い，その結果地域住民の意識を高め愛着を醸成する取り組みを展開することがマーケティングの相乗効果をもたらす可能性が高いことが示唆された．今後も継続研究していく．

価値創造についての研究（阿曽真紀子，辻野啓一）

企業のサービスシステムについて価値創造のメカニズムの解明に近づこうとする研究である．主に旅行会社を対象としているため，本年度においては，1995 年に導入されてから改良を重ね，現在まで継続し続けている JTB のハワイの OLI'OLI システムを取り上げて，マーケット戦略の側面および価値を生み出す仕組みについて検討した．調査の結果，3 つの役割段階に分けられ，その中心には 'OLI'OLI システムがあり, それらがサイクルして機能し，顧客と相互作用することでサービス価値が拡大していくように組み立てられていることが分かった．また好循環サイクルすることを狙いとしているのが，同システムのマーケット戦略的側面であることも明確になった．この成果については，日本観光研究学会で報告した．

宿泊予約サイト上のデータのマーケティングへの応用に関する研究（鈴木祥平）

インターネットやスマートフォンの普及に伴い，「宿泊予約サイト」は観光者にとって必要不可欠なツールとなっている．宿泊予約サイト上には価格，写真，紹介文など，宿泊施設側から提供される情報に加え，宿泊者によるレビューなど，多種多様な情報が溢れている．今年度の研究では，これらの情報の中でも宿泊施設が提供する写真を Google Cloud Vision API を用いて分析し，写真に含まれる要素を抽出した．その結果，写真に含まれる要素は宿形態によって大きく異なる（例えば旅館はホテルに比べて夜の要素を含む写真が使われる傾向にある）ことが明らかになった．また，地域ごとの特徴の違いも明らかになり，長野，山梨，群馬のホテルの写真は，他県の旅館の写真と近い要素を含んでいた．そして，これらの分析結果に「価格」の要素を加えた分析を行うため，各宿泊施設の価格情報を取得・処理するためのプログラムを開発した．

SNS データによるイベント評価（鈴木祥平）

本研究は，アンケートによる評価が一般的であるイベントの評価において，SNS データによる評価を実践し，その導入可能性について検討するものである．対象としたイベントは，2018 年度に台東区上野公園で行われた UENOYES バルーン DAYS である．本イベントは，筆者らが 2016 年に評価を行ったアートイベントの後継イベントにあたるため，過去の研究との比較が可能である点も踏まえて評価の対象とした．評価には Twitter の位置情報付きツイートとイベント関連キーワードを含むツイートを使用した．その結果，イベントに対する Twitter ユーザーの関心は，旧博物館動物園駅の公開を除き，抽出することができなかった．過去の研究結果を踏まえても，Twitter データでイベントの関心を観測するには，一定数以上の反響（ツイート・リツイート数）が必要であるため，小規模なイベントの評価には適していないと考えられる．一方で，他のイベントとの比較が可能であり，イベントについて相対的な評価が行えることが，アンケートに対するメリットであると考えられる．

3．研究成果

3．1　自然環境マネジメント領域

菊地俊夫

■口頭発表

- Kikuchi, T. “Development of wineries and its impact on rural commodification of Cowichan Valley in Vancouver Island, Canada”Reginal Conference of International Geographical Union(IGU) 2018: 8 月 6 ～ 10 日（カナダ・ケベックシティ・ケベックシティコンベンションセンター）
- Iizuka, R. , Kikuchi, T. and Phillips, M. “A new perspective on the landscape restructuring caused by rural gentrification in a cosmopolitanised commuter village”Reginal Conference of International Geographical Union(IGU) 2018: 8 月 6 ～ 10 日（カナダ･ケベックシティ･ケベックシティコンベンションセンター）
- Kikuchi, T. “Commodification of rural spaces with the development of urban farming in the Vancouver metropolitan area, Britishi Colombia, CANADA” EUROGEO Conference 2019: 3 月 14 日～ 15 日（フランス･パリ･ミレニアムホテルカンファレンスホール）
- 菊地俊夫 "" 小笠原諸島の概要、振興開発とその取り組みを中心として（基調講演）” 小笠原諸島返還 50 周年記念シンポジウム，2018 年 5　月 24 日（都議会議事堂 1 階都民ホール）
- 菊地俊夫 ” 地域共創や研究環としてのジェントリフィケーション (基調講演）” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催　国際フォーラム，2018 年 9 月 21 日（首都大学東京国際交流会館大会議室）
- 菊地俊夫 ” 大都市研究におけるジェントリフィケーション研究の可能性ーウェールズ・ガワー半島の事例を通じてー ” 首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催　国際フォーラム，2018 年 9 月 21 日（首都大学東京国際交流会館大会議室）
- 菊地俊夫 “ 高校新設科目「地理探究」と観光教育ー観光学の視点からー ” 2018 年日本地理学会秋季学術大会，2018 年 9 月 22 日（和歌山大学）
- 菊地俊夫 “ ジェントリフィケーションのフロンティア (基調講演）” 2018 年日本地理学会秋季学術大会, 2018 年 9 月 23 日（和歌山大学）
- 菊地俊夫 “ 地域共創と関連した国際シンポジウム ” 地域共創科学研究センター年度報告会（ネットワークミーティング 2018），2019 年 1 月 28 日，（首都大学東京国際交流会館大会議室）.

■論文（査読）

- 菊地俊夫（2018）：「地理探究」における観光教育の存在意義．新地理，第 66 巻 3 号，81-85.
- 菊地俊夫（2019）：カナダ・ブリティッシュコロンビア州のバンクーバー大都市圏における都市農業の発展にともなう農村空間の商品化．観光科学研究，12，11-20.

■論文（その他）

- 菊地俊夫 (2019)：小笠原観光の持続的発展．東京都小笠原支庁編　「小笠原支庁 50 年の記録」，99-101.
- 菊地俊夫 (2019)：地域共創や研究環の研究としてのジェントリフィケーション．首都大学地域共創科学研究センター・研究環国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」報告書，1-3.
- 菊地俊夫 (2019)：大都市研究におけるジェントリフィケーション研究の可能性　ーウェールズ・ガワー半島の事例を通じてー．首都大学地域共創科学研究センター･研究環国際フォーラム「大都市圏におけるジェントリフィケーション」報告書，64-70.

■図書

- Kikuchi,T. and Sugai,T. edt　(2018)：Tokyo as a Global City; New Geographical Perspectives. Springer, Singapore, 334.

沼田真也

■口頭発表

- Nugroho, P., S. Numata. S. Lucyanti. Community Based Tourism in Gunung Ciremai National Park, Indonesia　日本熱帯生態学会　静岡　2018 年 6 月
- Yeoh, S. H., A. Satake, S. Numata, T. Ichie, S. L. Lee, N. Basherudin, N. Muhammad, T. Kondo, T. Otani, and N. Tani. Assessment of plant phenological responses in the tropics based on gene expression analyses and mathematical modeling. ATB2018, Kuching, Malaysia. July 2018.
- Numata, S., Why biodiversity? Current status and prospects in natural and urban ecosystems. TMU-TSU Joint Symposium 2018 “The natural and artificial environments, the cultural Trends!”. Tomsk, Russia. September 2018 (Invited).
- ・Jacobs, M. Zulkhairi A. Z. A., T, Staka, S. Dubolis, T. Hosaka, S. Numata, E. Renaweewage, Y. Yamane, Huda Farhana M. M., K. K. Miller, A. Shaw, M. A. Weston, V. Lavadinović. A cross-cultural comparison of wildlife value orientations. Pathways Europe 2018, Goslar, Germany. September 2018.
- 杉山直之、保坂哲朗、髙木悦郎、沼田真也 幼少期の自然体験が自然に対する嫌悪や恐怖に与える影響 神戸　2019 年 3 月
- 山本彩華 , 沼田真也 , 保坂哲朗 潮干狩り客の収穫量と満足度の関係から見るアサリ資源管理 日本生態学会 神戸 2019 年 3 月

■論文

- Mohamad Muslim H.F., Yahya N.A., Numata S., Hosaka T. (2018) Ethnic Differences in Satisfaction with the Attractiveness of Tropical Urban Parks. In: McLellan B. (eds) Sustainable Future for Human Security. Springer, Singapore. Pp147-159.
- Numata, S. & Hosaka, T. (2018) The Current Status and Prospects for Biodiversity in Tokyo. Tokyo as a global city: New Geographical Perspectives. in T Kikuchi and T. Sugai (eds), Springer Singapore. pp 53-68.
- Cao, L., K. Fukumori, T. Hosaka, S. Numata, M. Hashim, T. Kosaki (2018) The distribution of an invasive species, Clidermia hirta along roads and trails in Endau Rompin National Park, Malaysia. Tropical Conservation Science. 11: 1940082917752818. DOI: 10.1177/1940082917752818
- Mahmud, M. R., M. Hashim, S. Numata, T. Hosaka, T. and

H. Matsuyama, H. (2018) Spatial downscaling of satellite precipitation data in humid tropics using site specific seasonal co-efficient. Water. 2018; 10(4):409

- Mohamad Muslim, H. F., T. Hosaka, S. Numata, N. A. Yahya (2018) Nature experience promotes public preference for and willingness to coexist with wild animals in Malaysia. Ecological Processes. 7: 18. https://doi.org/10.1186/s13717-018-0127-7
- Hosaka, T., Numata, S., Sugimoto, K. (2018) Relationship between childhood nature play and adulthood participation in nature-based recreation among urban residents in Tokyo area. Landscape and Urban Planning. 180: 1-4.
- 沼田真也 (2019) 観光・ツーリズム分野における生物多様性 : 取り組みと課題　日本生態学会誌 . 69: 23-27
- Ngo, K. M., T. Hosaka, S. Numata, N. (2019) The influence of childhood nature experience on attitudes and tolerance towards problem-causing animals in Singapore. Urban Forestry and Urban Greening.41：150-157.

■図書・報告書

- 沼田真也・保坂哲朗・髙木悦郎　(2018)　マレーシアの熱帯雨林における自然資源利用とワイルドライフツーリズム　菊地俊夫（編）ツーリズムの地理学 ―観光から考える地域の魅力―　二宮書店　pp178-189

大澤剛士

■口頭発表

- 大澤剛士 , シチズンサイエンス≠オープンサイエンス？広がる可能性と落とし穴／シチズンサイエンスから共創型イノベーションへの Next Step, JOSS2018 学術情報センター 2018 年 6 月
- 大澤剛士 , 搾取的でないコミュニティーベースドな地図作成を考える - 大学教育における挑戦 - ／オープン x シチズン サイエンスによる市民協働と次のステップに向けて , GIS 学会第 27 回学術大会企画セッション , 2018 年 10 月
- 大澤剛士 , 片思いは成就するのか？生態学者とコンサルタントの長いお付き合いを考える , シンポジウム「生態学者×実務者 - 自然環境の保全から活用に向けた社会構築の道筋を考える -」, 日本生態学会 神戸 2019 年 3 月
- 大澤剛士 , 気がついたら真っ黄色：キレイなお花の駆除戦略 , 公開講演会「迫りくる外来生物とのつきあい方」, 日本生態学会 神戸 2019 年 3 月
- 大澤剛士 , 生態学を武器に社会問題に挑む , フォーラム「ようこそ生態学へ：学会の楽しみ方と研究室選びの戦略」, 日本生態学会 神戸 2019 年 3 月
- 大澤剛士・山崎和久・田渕研・吉岡明良・石郷岡康史・須藤重人・高田まゆら , レガシーデータを再利用してアカスジカスミカメの分布拡大メカニズムに迫る . 日本応用動物昆虫学会 つくば 2019 年 3 月

■論文（査読）

- Hata K, Osawa T, Hiradate S, Kachi N（2019）: Soil erosion alters soil chemical properties and limits grassland plant establishment on an oceanic island even after goat eradication, Restoration Ecology,27(2), pp333-342.
- Yamamoto Y, Matsumoto T, Kobayashi H, Osawa T, Kachi N, Eguchi E (2018): Preliminary Report on Unnoticed Establishment of Pheidole parva Mayr Complex (Insecta: Hymenoptera: Formicidae: Myrmicinae) in the Ogasawara Islands: a Potential Risk to Native Ground-dwelling Invertebrates, Taiwanese Journal of Entomological Studies, 3, pp.53-59.
- Oo AZ, Sudo S, Inubushi K, Umamageswari C, Yamamoto A, Ono K, Mano M, Hayashida S, Vanitha K, Osawa T, Terao Y, Jothimani P, Elayakumar P, Ravi V(2018):「Mitigation Potential and Yield-Scaled Global Warming Potential of Early-Season Drainage from a Rice Paddy in Tamil Nadu, India, Agronomy, 8(10), 202.
- Koyanagi TF, Furukawa T, Osawa T（2018）: Nestedness-resultant community disassembly process of extinction debt in a highly fragmented semi-natural grassland, Plant Ecology, 219, pp.1093-1103.
- Osawa T, Yamasaki K, Tabuchi K, Yoshioka A, Ishigooka Y, Sudo S, Takada MB（2018）: Climate-mediated population dynamics enhances distribution range expansion of the pest insect, Stenotus rubrovittatus, Basic and Applied Ecology, 30, pp41-51.

杉本興運

■口頭発表

- 杉本興運・太田慧・鈴木祥平（2018）持続可能な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究 . 第 27 回地理情報システム学会学会学術大会，南大沢（首都大学東京），2018 年 10 月 20-21 日，ポスター発表.
- 西村圭太・杉本興運・菊地俊夫 . (2018) ソーシャルジオデータを活用したサイクリストの広域的な観光周遊行動の分析 . 地理情報システム学会，南大沢（首都大学東京），2018 年 10 月 20 日，口頭発表 .
- 杉本興運（2018）都市観光研究における空間データの利活用：人の流れデータを中心に．第 27 回地理情報システム学会学会学術大会，南大沢（首都大学東京），2018 年 10 月 20 日，口頭発表．（CSIS 企画セッション）
- 杉本興運 . 2018. ジェントリフィケーションとツーリズム . 国際ミーティング：大都市圏におけるジェントリフィケーション, 南大沢（首都大学東京）, 2018 年 9 月 21 日, 口頭発表 .（シンポジウム）coming soon...

■論文

- Sugimoto Koun, Ota Kei, Suzuki Shohei(2019)Visitor mobility and spatial structure in a local urban tourism destination: GPS tracking and network analysis. Sustainability,11(3):919.
- Hosaka Tesuro, Numata Shinya, and Sugimoto Koun(2018) Relationship between childhood nature play and adulthood participation in nature-based recreation among urban

residents in Tokyo area.Landscape and Urban Planning,180,1-4.

- 服部陽太・杉本興運・菊地俊夫 (2018) 小笠原諸島のエコツアーにおける心理的リアクタンス . 小笠原研究年報 ,41,65-81.
- 杉本興運・太田慧・鈴木祥平（2018）持続可能な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究 . 地理情報システム学会学術大会研究発表論文集 .CD-ROM
- 西村圭太・杉本興運・菊地俊夫 . (2018) ソーシャルジオデータを活用したサイクリストの広域的な観光周遊行動の分析 . 地理情報システム学会学術大会研究発表論文集 .CD-ROM
- 小池卓矢・上原明・杉本興運 . (2018) 都市におけるアニメショップの分布と地域イメージの関係性 . 地理 ,63-9:26-31.
- 杉本興運 . (2018) 大都市圏の若者にみる観光・レジャーの行動特性 . 地理 ,63-9:10-17.

■図書・報告書

- 杉本興運 (2019) 観光：東京地理入門 . 朝倉書店 (in press)
- 杉本興運 (2018) ジェントリフィケーションとツーリズム . 大都市圏におけるジェントリフィケーション ,p.57-63. (首都大学東京地域共創科学研究センター・研究環共催国際フォーラム報告書．)

高木悦郎

■口頭発表

- 保坂哲朗・高木悦郎，種子食性昆虫研究会，第 66 回日本生態学会大会，神戸，2019 年 3 月.
- 高木悦郎，モチノキを巧みに利用する種子食性オナガコバチ " モチノキタネオナガコバチ ", 第 66 回日本生態学会大会, 神戸, 2019 年 3 月.
- 杉山直之 , ・保坂哲朗・髙木悦郎・沼田真也，幼少期の自然体験が自然に対する嫌悪や恐怖に与える影響，第 66 回日本生態学会大会，神戸，2019 年 3 月.
- Smith, Z.M.・Chase, K.D.・Kees, A.M.・Takagi, E.・Aukema, B.H., Competition between mountain pine beetle (Dendroctonus ponderosae) and native Minnesotan bark beetle (Ips grandicollis)，Upper Midwest Invasive Species Conference, Rochester, MN, USA. 2018 年 10 月.

■論文

- Takagi, E., Masaki, D., Kanai, R., Sato, M., Iguchi, K. (2018) Mass mortality of Abies veitchii caused by Polygraphus proximus associated with tree trunk diameter in Japan. Forest Ecology and Management, 428, 14-19..

■図書・報告書

- 筑波大学山岳科学センター菅平高原実験所（編），町田龍一郎（監修）：(2019) 蟲愛ずる人の蟲がたり　筑波大学出版会 2019 年 3 月

ラナウィーラゲ エランガ

■論文

- ラナウィーラゲ　エランガ　(2019): 日本の大学における交換留学生の旅行動機：　首都大学東京における AIMS プログラム参加者の事例研究

太田慧

■口頭発表

- Ota, K., Recent trends in night cruises and the restructuring of the Tokyo waterfront, Regional Conference of the International Geographical Union, Quebec 2018 年 8 月
- 杉本興運・太田　慧・鈴木祥平，持続可能な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究，地理情報システム学会，首都大学東京，2018 年 10 月

■論文

- Sugimoto, K., Ota, K., and Suzuki, S.（2018）：Visitor Mobility and Spatial Structure in a Local Urban Tourism Destination: GPS Tracking and Network analysis. Sustainability, 11, pp.919-936.
- 太田慧・飯塚遼・池田真利子（2018）：東京における新たな若者向けナイトライフ観光の具体性．月刊「地理」，63，40-47.

■図書・報告書

- 首都大学東京観光科学科（2019）：UENOYES バルーン DAYS イベント評価報告書
- 首都大学東京観光科学科（2018）：上野駅周辺歩行者回遊行動調査報告書

3．2　地域計画・マネジメント領域領域

清水哲夫

■口頭発表

- 栗原剛, 崔善鏡, 清水哲夫：わが国の地域観光組織におけるデータマネジメントレベル評価，第 57 回土木計画学研究発表会，東京，2018 年 6 月 .
- 小島史也，清水哲夫：GPS データを用いた訪日外国人の訪問最終日の観光行動特性の分析, 第 57 回土木計画学研究発表会，東京，2018 年 6 月
- Choi, S., Kurihara, T. and Shimizu, T.: Progress and challenge in tourism statistics utilization in Japan: Regional tourism organizations and data management level，2018 TTRA Conference, Miami, 2018.6.
- 中島寛崇，板橋遼，清水哲夫，三輪富生，茂木渉：都市内高速道路の交通量推計におけるリンクパフォーマンス関数の改良，第 38 回交通工学研究発表会，東京，2018 年 8 月 .
- 清水哲夫，竹本佳文，川原晋：観光地駐車場における時間短縮，事前予約制および付帯サービスの価値推計～高尾山地区における観光地マネジメント構想実現のための駐車場マネジメントシステムの導入を目指して，日本都市計画学会第 53 回学術研究論文発表会，大阪，2018 年 11 月 .
- 平田徳恵，清水哲夫，川原晋，岡村祐：地域創生事業立案の

ための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，日本都市計画学会第 53 回学術研究論文発表会，大阪，2018 年 11 月 .

- 横瀬和也，清水哲夫：都市間の国際航空路線の就航可能性を判断する実用モデルに関する基礎的研究，第 58 回土木計画学研究発表会，大分，2018 年 11 月 .

■講演等

- 栗原剛，崔善鏡，Nguyen, V. T.，清水哲夫：地域観光組織のニーズを踏まえた観光統計の新たな活用に向けた実証分析－宿泊旅行統計調査を対象として，運輸総合研究所第 43 回研究報告会，東京，2018 年 5 月 .
- 清水哲夫：東京オリンピック・パラリンピックを原動力とした東京の舟運・水辺空間利用活性化，平成 30 年度日本沿岸域学会講習会，東京，2018 年 9 月 .
- 清水哲夫：道路・交通の周辺から考える ITS の未来～ ITS の進化は都市・地域空間をどのように変貌させるか～，公益社団法人日本道路協会道路政策に関する講演会, 東京, 2018 年 9 月 .
- 清水哲夫，栗原剛，崔善鏡，Nguyen, V. T.：地域観光振興組織の利活用ニーズに応じた観光統計整備のあり方，運輸総合研究所第 44 回研究報告会，東京，2018 年 11 月 .

■論文（査読）

- Ghani, N. A. and Shimizu, T.: Model Development of Pedestrian Satisfaction Index for Street Evaluation by Traffic and Non-Traffic Functions in Tourism Area, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.12, pp.1038-1057, 2018.
- Nguyen, V. T. and Shimizu, T.: Input-Output Table for Transportation and Tourism Analysis: Construction and Applications, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.12, pp.2117-2132, 2018.
- Choi, S., Kurihara, T. and Shimizu, T.: Progress and challenge in tourism statistics utilization in Japan: Regional tourism organizations and data management level, 2018 TTRA Proceedings, 2018.
- 清水哲夫，竹本佳文，川原晋：観光地駐車場における時間短縮，事前予約制および付帯サービスの価値推計～高尾山地区における観光地マネジメント構想実現のための駐車場マネジメントシステムの導入を目指して，都市計画論文集，Vol.53, No.3, pp.1335-1340, 2018.
- 平田徳恵，清水哲夫，川原晋，岡村祐：地域創生事業立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，都市計画論文集，Vol.53, No.3, pp.474-481, 2018.
- Marpaung, N. and Shimizu, T.: Road-Development Strategies to Support Self-Drive Tourism (SDT) in Bali Based on SWOT Analysis, Journal on Tourism and Sustainability, Vol.2, No.1, pp.23-33, 2018.
- Watthanaboon, T. and Shimizu, T.: The Dimension Of Risk Perception In The Context Of Political Crises, Journal on Tourism and Sustainability, Vol.2, No.1, pp.57-65, 2018.
- Khanal, B. P. and Shimizu, T.: Factor Affecting the Development of Health Tourism in Nepal: Regarding the Views of Health Tourists, Journal of Tourism Research and Hospitality, Vol.7, Issue 3, pp. 1-6, 2018.
- 九鬼令和，清水哲夫：訪日外国人旅行者（中国，韓国，台湾）の延べ宿泊者数に対する影響要因についての研究，観光研究，Vol.30, No.2, 2019.（登載決定）

■図書・報告書

- 初めて学ぶ都市計画第二版（分担），第 6 章：都市の再生と交通システム，pp.65-76，市ヶ谷出版社，2018.
- Tokyo as a Global City (分担), Chapter 12: Transport Planning and Management in Tokyo Metropolitan Region: Its History, Current Situation and Future Perspective, AJF Library 8, International Perspective in Geography, Springer, 2018.

■論説・解説記事

- 清水哲夫：統計データは語る Vol.01，TRAVEL JOURNAL 2018 年 4 月 9 日号，pp.31, 2018.
- 清水哲夫：これからの地域交通とその観光対応の方向性を考える，観光文化，237, pp.4-7, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.2，TRAVEL JOURNAL2018 年 5 月 7・14 日号，pp.31, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.3，TRAVEL JOURNAL2018 年 6 月 11 日号，pp.27, 2018 .
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.4，TRAVEL JOURNAL2018 年 7 月 9 日号，pp.27, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.5，TRAVEL JOURNAL2018 年 8 月 6 日号，pp.29, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.6，TRAVEL JOURNAL2018 年 9 月 10 日号，pp.27, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.7，TRAVEL JOURNAL2018 年 10 月 8 日号，pp.27, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.8，TRAVEL JOURNAL2018 年 11 月 5 日号，pp.29, 2018.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.9，TRAVEL JOURNAL2018 年 12 月 3 日号，pp.29, 2018.
- 清水哲夫：地域・都市計画からの自動運転への期待，交通工学，Vol.54, No.1, pp.1-2, 2019.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.10，TRAVEL JOURNAL2019 年 1 月 7・14 日号，pp.37, 2019.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.11，TRAVEL JOURNAL2019 年 2 月 11 日号，pp.27, 2019.
- 清水哲夫：統計データは語る Vol.12，TRAVEL JOURNAL2019 年 3 月 11 日号，pp.29, 2019.

■論文（その他）

- 栗原剛，崔善鏡，清水哲夫：わが国の地域観光組織におけるデータマネジメントレベル評価，土木計画学研究・講演集，No.57(CD-ROM), 2018.
- 小島史也，清水哲夫：GPS データを用いた訪日外国人の訪問最終日の観光行動特性の分析，土木計画学研究・講演集，

No.57(CD-ROM), 2018.

- 中島寛崇，板橋遼，清水哲夫，三輪富生，茂木渉：都市内高速道路の交通量推計におけるリンクパフォーマンス関数の改良，第 38 回交通工学研究発表会論文集 (CD-ROM), 2018.
- 横瀬和也，清水哲夫：都市間の国際航空路線の就航可能性を判断する実用モデルに関する基礎的研究，土木計画学研究・講演集，No.58(CD-ROM), 2018.

川原晋

■口頭発表

- 甲田 亮輔 , 川原 晋（2018）,「新宿ゴールデン街を訪れる外国人観光客の期待と店舗の歓迎意向別対応」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.47-50, 2018.09
- 中村 優里 , 川原 晋 , 片桐 由希子（2018）,「全国都市緑化フェアがもたらすレガシーとその持続性について」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.11-14, 2018.09
- 清水哲夫，竹本佳文，川原晋：観光地駐車場における時間短縮，事前予約制および付帯サービスの価値推計～高尾山地区における観光地マネジメント構想実現のための駐車場マネジメントシステムの導入を目指して，日本都市計画学会第 53 回学術研究論文発表会，大阪，2018. 11
- 益尾孝祐 , 川原晋 , 泉英明 , 荒井唯香 , 長町志穂 , 片岸将広 , 木村隼斗：長門湯本温泉における観光まちづくりと連携したガイドラインの策定 , 日本建築学会大会学術講演会
- 平井幸弘 , 佐藤滋 , 古川尚彬 , 川原晋 , 田中滋夫、ベトナム中部グエン朝歴代皇帝陵における伝統的水利システムの再生 2018 年度日本地理学会春季学術大会 , 日本地理学会発表要旨集

■論文（査読）

- 永島 奨之 , 川原 晋 , 野田 満（2018）,「I ターン者による漁業資産の引き継ぎと観光業への転用に関する基礎的研究 : 引き継ぎに際する障壁への対応に着目して」, 都市計画論文集 53(3), pp.1029-1035, 2018.11
- 清水 哲夫 , 竹本 佳文 , 川原 晋（2018）,「観光地駐車場における時間短縮，事前予約制および付帯サービスの価値推計 : 高尾山地区における観光地マネジメント構想実現のための駐車場マネジメントシステムの導入を目指して」, 都市計画論文集 53(3), pp1335-1340, 2018.11
- 甲田 亮輔 , 川原 晋（2018）,「新宿ゴールデン街を訪れる外国人観光客の期待と店舗の歓迎意向別対応」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.47-50, 2018.09
- 中村 優里 , 川原 晋 , 片桐 由希子（2018）,「全国都市緑化フェアがもたらすレガシーとその持続性について」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.11-14, 2018.09
- 平田徳恵，清水哲夫，川原晋，岡村祐：地域創生事業 立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践 と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，都市計画論 文集，53(3)，pp.474-481，2018 .10
- 古川尚彬，赤澤 貴仁，寺澤裕実子，中西美裕，川原晋，佐藤滋：嘉隆帝陵周辺に形成された文化的景観のマネジメント手法と してのエコツーリズムの可能性と課題 , 日本建築学会大会学術講演梗概集 (中国), p31-34, 2018. 09

■論文 (その他)

- 岡村祐，野原卓，川原晋：東京都大田区を対象としたクリエティブタウンの取り組み その 1，観光科学研究 12，pp.65-70, 2019.03

■報告書

- 「高尾山観光まちづくりオーラルヒストリー　～未来に紡ぎたい、暮らしとなりわいの個人史～」, 八王子市都市計画マスタープラン　高尾山駅周辺地区整備計画 資料編 , 首都大学東京川原晋研究室・八王子市 ,2019.03
- 「地域観光プランニングカレッジ　～山口県長門湯本温泉 × 萩焼～　成果報告書」, 日本建築学会地域観光プランニング小委員会，2019.03

■講演・研修講師等

- 主題説明講演「長門湯本温泉 観光まちづくりプロジェクトの見方」, 早稲田まちづくりフォーラム「官 & 民 & 地域が一気通貫で参画する地域再生 ～山口県長門湯本温泉のライブ感ある社会実験を通して」, 2018,05.30
- 研究会講義「これからの観光のあり方、進め方から考える多摩」, ローカルラボー多摩の未来を考える研究会 1 , 2018.06.30
- 基調講演「MICE と観光まちづくり・ビジネスの接点 ～地域の活動・ビジネスを MICE につなげる可能性」, わかる !! MICE セミナー ～新しい集客スタイル～ , 八王子観光コンベンション協会 , 2018.07.09
- 研修講師「観光手法と都市計画手法を活かした地域産業の活性化」, Jsurp まちづくりカレッジ 2018「プランニングの " これまで " と " これから " ～都市制度の系譜とこれからの都市計画理論～」, 認定 NPO 日本都市計画家協会 , 2018,10.30
- 基調講演「これからの観光まちづくり～まちづくりや産業振興への活かし方」, 町田市観光まちづくりシンポジウム 2018, 東京都町田市経済観光部 , 2018.11.07
- 日本建築学会 地域観光プランニング少委員会編 (2018):「地域観光プランニングカレッジ - 山口県長門湯本温泉×萩焼 -」
- 大田クリエイティブタウン研究会・一般社団法人おおたク リエイティブタウンセンター編著 (2019):「モノ・マチ BOOK2018

岡村 祐

■口頭発表

- 岡村祐（2018）：東京都心部における観光案内所の設置・ネットワーク化，日本建築学会大会学術講演会 , 東北大学，2018 年 9 月
- 山嵜一也・岡村祐（2018）：山嵜平昌冬季五輪における競技会場・施設の招致から開催に至る変遷主会場である平昌五輪プラザと江陵五輪パークをケーススタディとして，日本建築学会大会学術講演会 , 東北大学 , 2018 年 9 月

- 劉羽佳・岡村祐（2018）：宗族の再生活動からみた中国陝西省堯頭村の文化的景観に関する研究，日本建築学会大会学術講演会 , 東北大学 , 2018 年 9 月
- 関谷悠・岡村祐（2018）：マレーシア・クアラルンプールの都市近郊におけるナイトマーケットの利用実態―TTDI ナイトマーケットを事例として―，日本建築学会大会学術講演会 , 東北大学 , 2018 年 9 月 "

■論文（査読）

- 平田徳恵・清水哲夫・川原晋・岡村祐（2018）：地域創生事業立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，都市計画論文集，53(3)，pp.474-481，2018 年 10 月

■論文（その他）

- 岡村祐・野原卓・川原晋（2019）：東京都大田区を対象としたクリエイティブタウンの取り組み その 1 ，観光科学研究 12，pp.65-70.，2019 年 3 月
- 岡村祐（2018）：東京都心部における観光案内所の設置・ネットワーク化，日本建築学会大会学術講演会，日本建築学会大会学術講演梗概集 , F-1，pp.301-302，2018 年 9 月
- 山嵜一也・岡村祐（2018）：山嵜平昌冬季五輪における競技会場・施設の招致から開催に至る変遷主会場である平昌五輪プラザと江陵五輪パークをケーススタディとして，日本建築学会大会学術講演梗概集 , F-1，pp.189-190，2018 年 9 月
- 劉羽佳・岡村祐（2018）：宗族の再生活動からみた中国陝西省堯頭村の文化的景観に関する研究，日本建築学会大会学術講演梗概集 , F-1，pp.957-958，2018 年 9 月
- 関谷悠・岡村祐（2018）：マレーシア・クアラルンプールの都市近郊におけるナイトマーケットの利用実態―TTDI ナイトマーケットを事例として―，日本建築学会大会学術講演梗概集 , F-1，pp.363-364，2018 年 9 月

■図書・報告書

- Toshio KIKUCHI and Toshihiko SUGAI: Tokyo as a Global City: New Geographical Perspectives (International Perspectives in Geography), Springer, April 2018. Yu OKAMURA: Chapter 11. Past, Present, and Future Views in Tokyo.
- 日本建築学会地域観光プランニング少委員会編（2018）：「地域観光プランニングカレッジ - 山口県長門湯本温泉×萩焼 -」
- 大田クリエイティブタウン研究会・一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター編著（2019）：「モノ・マチ BOOK2018」

片桐由希子

■口頭発表

- 中村優里・川原晋・片桐由希子 (2018)：全国都市緑化フェアがもたらすレガシーとその持続性について ,2018 年度日本建築学会全国大会 , 2018.9.4
- 片桐由希子・椎原晶子 (2018)：文化資源を活かしたまちのしくみづくり その 2 地域の活動の継承・発展の基盤としての地域文化資源デジタルアーカイブの可能性 ,2018 年度日本建築学会全国大会 , 2018.9
- 椎原晶子・片桐由希子 (2018)：文化資源を活かしたまちのしくみづくり その 3 住民・企業・専門家・大学、自治体協働の地域づくりプロセス : 東京都心北東部・谷中地区を例に ,2018 年度日本建築学会全国大会 , 2018.9
- 北垣亮馬・石田崇人・長根乃愛・片桐由希子 (2018)：マンションの修繕積立金の資金繰り逼迫性の空間分布構造に関する基礎的研究 ,2018 年度日本建築学会全国大会 , 2018.9
- Sadahisa Kato, Takanori Fukuoka and Yukiko Katagiri(2018)：City-scale Green Infrastructure Implementation Strategies through the Examination of City of Philadelphia's Green Infrastructure Plans,International Symposium on Architectural Interchange in Asia,Pyeongchang, Korea,2018.10
- Takanori Fukuoka, Sadahisa Kato and Yukiko Katagiri(2018)：Linking Site-scale Projects to City-scale Green Infrastructure Strategies,International Symposium on Architectural Interchange in Asia, Korea,2018.10

■論文（その他）

- 片桐由希子 (2018):『造園雑誌』にみる観光地開発と郷土風景の価値（連載：造園雑誌アーカイブス）, 日本造園学会誌ランドスケープ研究 82(4),264
- 椎原晶子・片桐由希子 (2018): 自然の恵、寺町の歴史、生活文化が支える谷中の緑（特集：機能集約型都市のモデル「江戸」）, 都市緑化技術 ,No.107, 12-13

■フォーラム等

- 片桐由希子 (2019): プロジェクトスクール＠谷中の成果と課題 , 東京文化資源会議第 6 回フォーラム「まちづくりプロジェクトスクールの可能性：『文化資源を担う人』を育てるまちなかのしくみ」,2019 年 1 月 19 日 , 明治大学駿河台校舎　アカデミーコモン
- 片桐由希子 (2019): 地図から見る帝都物語 , 第 9 回東京文化資源会公開シンポジウム「地図からみる帝都物語と江戸・東京＠神田明神 - 重層化する都市の文化資源を愉しませる -」, 神田明神ホール

野田満

■口頭発表

- 野田満・上村真仁・不破正仁・野村理恵：観光圏整備事業の運用における今日的課題に関する基礎的研究、日本建築学会関東支部発表会優秀研究報告集（掲載決定）、2019.03

■論文

- 永島奨之・川原晋・野田満：I ターン者による漁業資産の引き継ぎと観光業への転用に関する基礎的研究、都市計画論文集第 53 号、pp.1029-1035、2018.10
- 野田満：関係人口の再考に関する一試論、日本建築学会大会 PD 資料集「農山漁村を動かす人々　『〇〇ターン』と地域組織・地域再生のこれから」、pp.75-78、2018.09

古川尚彬

■口頭発表

- 『嘉隆帝陵周辺に形成された文化的景観のマネジメント手法としてのエコツーリズムの可能性と課題　～ヴィエトナム・フエ京城都市の変容に関する研究 (24) ～』　○古川尚彬・赤澤貴仁・寺澤裕実子・中西美裕・川原晋・佐藤滋　日本建築学会大会学術講演梗概集（中国）p31-34 2018 年 9 月

■図書・報告書

- On Characteristics and the Potentials of Cultural Landscape and Traditional Water System designed in the peripheries of Nguyen Imperial Tombs"" Final Record International Symposium of Sustainable Management and Appropriate Utilization of the Cultural Landscape and Historical-Eco System at Royal Tombs of Nguyen Dynasty and Huong River's Upstream Region, Hue-Vietnam 古都フエ遺跡保存センター紀要 .p.66-85 May 2019

平田徳恵

■口頭発表

- 平田徳恵：東京都多摩地域の自治体による観光施策の位置づけと今後～地域創生スクールにおける演習を通して～，日本建築学会（東北）大会学術講演, 選抜梗概:オーガナイズドセッション，2018 年 9 月
- 平田徳恵・清水哲夫・川原晋・岡村祐：地域創生事業立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，都市計画学会，2018 年 11 月

■論文（査読）

- 平田徳恵・清水哲夫・川原晋・岡村祐（2018）：地域創生事業立案のための自治体職員を対象とする研修プログラムの実践と評価～地域創生スクールの二年間の取り組み，都市計画論文集 53 巻 3 号 , pp.474-481.

■論文（その他）

- 平田徳恵・川原晋（2019）：東京都多摩地域の自治体による観光施策の位置づけと今後～地域創生スクールにおける演習を通して～, 日本建築学会（東北）大会学術講演梗概集, 選抜梗概：オーガナイズドセッション 7008，pp.19-22.
- 平田徳恵（2019）：持続的な観光地づくりを促すツールとしてのブルーフラッグ認証の可能性～由比ガ浜および若狭和田海水浴場の 2 事例に着目して～，日本建築学会（北陸）大会学術講演梗概集，選抜梗概：オーガナイズドセッション（掲載決定）

■図書・報告書

- 「東京都観光経営人材育成事業」高度観光経営人材育成に向けた調査・研究業務 (2019 年 3 月) 編著：清水哲夫 , 平田徳恵
  ※国内の情勢：社会人向け観光経営人材育成を巡る最新情勢や認定・資格制度、既存の社会人向け観光経営人材のアウトプット評価　についての執筆を主に担当
-

3．3　行動・経営科学領域

倉田陽平

■口頭発表

- Utilising Crowd Information of Tourist Spots in an Interactive Tour Recommender System Takashi Aoike1, Tatsunori Hara, Jun Ota, and Yohei Kurata(2019), ENTER2019, 9 eTourism conference, 2019 年 1-2 月，Nicosia, Cyprus.
- 青池孝，ホーバック，倉田陽平，太田順，原辰徳 (2018) 対話的な人込み情報の提示による旅行計画支援手法の開発．第 15 回観光情報学会全国大会講演予稿集，pp.31-32，2018 年 2 月 , 飯塚.

■論文（査読）

- 岡野雄気，倉田陽平，直井岳人 (2018) 観光地への愛着に影響を与える滞在中の経験 . 観光研究第 30 巻第 1 号 , 査読有
- 原辰徳、品川泰嵩、倉田陽平、太田順 (2018) 観光プランの推薦技術を用いた地域の観光特徴の分析方法 . 観光と情報 ,14,59-70, 査読有.

■図書

- 貞廣幸雄・山田育穂・石井儀光編（2018）「空間解析入門」4. 3 章「観光行動分析と空間解析」を分担執筆．朝倉書店

直井岳人

■口頭発表

- 岡野雄気・直井岳人・倉田陽平（2018 年 5 月）観光地としての離島の場所愛着に与える滞在中の経験：与論島をケースとして　人間・環境学会第 25 回大会　工学院大学　東京
- Nakamata, R., Naoi, T., & Iijima, S. (2018 年 6 月). Potential visitors' evaluation of photographs of destinations with volcanoes and the effects of their past experiences with natural disasters. Proceedings of Travel and Tourism Research Association 2018 Annual International Conference, Miami, USA.
- Kawada, H., & Naoi, T. (2018 年 6 月). Defining factors of destination loyalty that are unrelated to tourist satisfaction: A review of preceding studies. Proceedings of Graduate Student Research Colloquium at Travel and Tourism Research Association 2018 Annual International Conference, Miami, USA.
- Naoi, T., & Iijima, S. (2018 年 12 月). Using others' behaviors as an intervention to foster pro-environmental behavior in tourists: A case of beach cleaning. Proceedings of Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter 2018 Conference, Ho Chi Minh City, Vietnam.
- Yasuda, S., Naoi, T., & Okano , Y. (2018 年 12 月). The effect of push and pull motives on university students' intention to visit remote islands. Proceedings of Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter 2018 Conference, Ho Chi Minh City, Vietnam.

- Okano, Y., & Naoi, T. (2018 年 12 月). Elucidation of the chronological formation of destination attachment: Applying the Trajectory Equifinality Approach. Proceedings of Travel and Tourism Research Association Asia Pacific Chapter 2018 Conference, Ho Chi Minh City, Vietnam.
- Nakamata, R., & Naoi, T. (受理済み　2019 年 6 月予定). The effect of information intervention on a model of potential visitors' intentions to avoid visiting volcanic destinations. Proceedings of Travel and Tourism Research Association 2019 Annual International Conference, Melbourne, Australia.

■論文（査読）

- 岡野雄気・倉田陽平・直井岳人（2018 年 9 月）観光地の愛着に影響を与える滞在中の経験　観光研究　30(1)　5-18.
- 田中涼・直井岳人（2019 年 3 月）観光情報ミックスと観光地イメージの関係：英国在住非日本人が取得する情報と日本のイメージを事例として　観光科学研究　第 12 号　1-10.
- 上原明・直井岳人・飯島祥二（2019 年 3 月刊行予定）観光者の購買意向を促すサービススケープに関する研究：観光者及び観光業従事者の認知的視点における店舗特性と購買意向の関係性　人間・環境学会誌 .

■論文 (その他）

- 河田浩昭・直井岳人（2019 年 3 月）観光者満足度に関わらない観光地ロイヤルティの規定要因：先行研究のレビューを通した整理　観光科学研究　第 12 号　59-64.
- Uehara, A., Naoi, T., & Iijima, S. (2019 年 3 月 刊 行 予 定). Relationship between servicescapes and tourists' evaluation of shops: Case of a shopping district in Naha city. Advances in Tourism Marketing.

小笠原悠

■口頭発表

- 小笠原悠，久野優斗，金正道，区間値データに対する 2 つのクラスタリング手法の比較, 研究集会「最適化と確率モデル」, 2019 年 2 月
- 小笠原悠，座席位置選択モデルの近似法とその比較，「不確実性環境下の意思決定モデリング」第 20 回研究会　2018 年 12 月
- 小笠原悠 , 久野優斗，金正道，区間値距離を利用した階層的クラスタリングとその樹形図，京都大学数理解析研究所共同研究（公開型）：不確実性の下での意思決定の数理とその周辺 , 2018 年 11 月
- 相馬優樹，小笠原悠，中路重之，共分散構造分析を用いた認知症機能関連因子の因果関係の検討，認知症予防学会，2018 年 9 月
- 小笠原悠，座席位置選択モデルにおける状態空間生成条件について，日本応用数理学会 2018 年度年会 ポスター講演　2018 年 9 月
- 駒目瞳，沢田かほり，平川裕一，相馬優樹，小笠原悠，中路重之，井原一成，青森県弘前市における「健康増進リーダー」育成事業，東北公衆衛生学会，2018 年 7 月
- 中村愛理子，相馬優樹，小笠原悠，菱田幸宏，渡邊史子，小松美穂，中路重之，血漿中アミノ酸農奴と心血管疾患リスクの関係性の検討，日本アミノ酸学会産官学連携シンポジウム，ポスター講演，2018 年 6 月

■論文（査読）

- Yu Ogasawara and Masamichi Kon: Choice-based Seating Position Model with Undistinguished Multi-Lines in Revenue Management, The Journal of the Operations Research Society of Japan 62(1) 37-52 2019 年 1 月

■論文 (その他）

- 小笠原悠：座席位置選択モデルにおける近似解について，数理解析研究所講究録，2078, 2018 年 7 月

日原勝也

■口頭発表

- HIHARA Katsuya, "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion" 世界航空学会 (ATRS) 年次総会 , 2018 年 7 月 2 日 -5 日（韓国・ソウル・国際会議場)
- 日 原 勝 也　"Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion"　応用地域学会・研究報告会 , 名古屋・南山大学 , 2018 年 12 月

■論文 (その他）

- HIHARA Katsuya (2018), "Analysis of Airport- Airline Relationship with a Third Party Tourism Promotion",Applied Regional Science Conferecne Annual Meeting at Nanzan University, Nagoya, working paper

■図書

- HIHARA Katsuya and MAKIMOTO Naoki　(2018), Analyses of Risk Sharing Contract -- Bargaining and Agency Analysis, Airline Economics in Asia (Advances in Airline Economics 7th edition, J.K. Brueckner, M. Dresner, T. Oum et al. ed.)(Emerald Group Publishing), pp. 267-286

鈴木祥平

■口頭発表

- 杉本興運・太田慧・鈴木祥平，持続可能な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究，地理情報システム学会，首都大学東京，2018 年 10 月
- 鈴木祥平，観光協会によるソーシャルメディア利用実態，観光情報学会，近畿大学，2018 年 6 月

■論文（査読）

- Sugimoto, K., Ota, K., Suzuki, S. (2019): Visitor Mobility and Spatial Structure in a Local Urban Tourism Destination: GPS Tracking and Network Analysis, Sustainability　11(3)
- 鈴木祥平（2019）：宿泊予約サイトにおいて使用される写真の特徴分析 ―ホテルと旅館の違いに着目して―，情報科学研究，(39)

■論文 (その他)

- 杉本興運 ,・太田慧・鈴木祥平（2018），持続可能な都市観光地のマネジメントに向けた観光回遊行動の研究，地理情報システム学会第 27 回学術研究発表大会講演論文集
- 鈴木祥平（2018），観光協会によるソーシャルメディア利用実態，観光情報学会第 15 回全国大会講演予稿集，pp. 19-20

■図書・報告書

- 上野駅周辺歩行者回遊行動調査報告書
- UENOYES バルーン DAYS イベント評価報告書

阿曽真紀子

■口頭発表

- 阿曽真紀子・辻野啓一，「'OLI'OLI システム」の価値共創のメカニズム，第 33 回 日本観光研究学会 全国大会，2018 年 12 月

■論文

- 阿曽真紀子・辻野啓一（2018）「'OLI'OLI システム」の価値共創のメカニズム，第 33 回 日本観光研究学会 全国大会 学術論文集 ,pp.85-88
- 阿曽真紀子・高澤由美・辻野啓一（2018）観光地経営組織におけるインターナル・マーケティングに関する考察，観光科学研究 第 12 号 ,pp.49-58

4．特定学術研究

4．1　自然環境マネジメント領域

菊地俊夫

- 基盤研究 C（一般）：フードツーリズムのフレームワークを用いた農村再生システムの地理学的研究 ..　平成 29 年～ 32 年度（代表・採用）
- 上野観光連盟：上野地域の観光活性化プロジェクト、上野の杜文化プロジェクト.
- 上野文化の杜新構想実行委員会：UENOYES バルーン DAYS イベント評価プロジェクト
- 東京都産業労働局観光部：東京における MICE の調査研究.
- 東京都産業労働局農政部：東京における農地保全における市民農園・農業体験農園の役割に関する調査研究 .
- Economic and Social Research Council Fund (UK) : Explorations of comparative ruralism in the UK and Japan

沼田真也

- 平成 30 年度　科研費　挑戦的萌芽研究代表者「自然保護地域の持続的管理に寄与するバーチャルハンティングプログラム開発」採択
- 日本学術振興会特別研究員 PD 受け入れ（鈴木愛、研究課題名：バングラデシュ北東部の湿地におけるスナドリネコと人との関係）
-

大澤剛士

- 基盤研究 A（一般）：生態系機能の持続可能性：外来生物に起因する土壌環境の劣化に伴う生態系の変化．2016 年～ 2018 年度（分担）
- 基盤研究 B（一般）：農地景観の変化と気候変動が水田害虫の分布拡大に与える影響：長期データによる検証．2016 年～ 2020 年度（分担）
- 基盤研究 C（一般）：景観遺伝学的解析をもちいたツキノワグマの遺伝構造を形成する環境要因の解明．2018 年～ 2020 年度（分担）
- 三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング , 共同研究（資金提供型）

杉本興運

- 科研費 若手研究：観光行動の実践的調査・分析フレームワークの構築と地域マネジメントへの活用 , 平成 31-33 年度（代表）※新規獲得
- 国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況
- ミニ研究環 (首都大学東京)：若者の観光需要と潜在性の評価：将来の観光産業の維持・発展に資する研究の拠点形成 , 平成 30 年度（代表）
- 傾斜研究費 LS（首都大学東京）：欧州の MICE ビジネスの発展過程，平成 30 年度（代表）
- 受託研究（台東区役所）：上野駅周辺歩行者回遊行動調査 , 平成 30 年度（代表）
- 研究分科会活動経費（日本観光研究学会）：ナイトライフ観光とナイトタイムエコノミー 平成 28 － 29 年度（分担）
- 研究環（首都大学東京）：大都市圏のジェントリフィケーションの研究 , 平成 29 － 30 年度（分担）
- 受託研究（上野観光連盟）：昭和 39 年以降の上野地域の歴史の編纂 , 平成 27 － 30 年度（分担）

4．2　地域計画・マネジメント領域領域

清水哲夫

- 基盤研究 B「ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言」（研究代表者：清水哲夫，2016 ～ 2018 年度）
- 基盤研究 B「アジア途上国における多様なコネクティビティを有する国境横断型まちづくりの研究」（研究代表者：張峻屹 広島大学教授，2018 ～ 2021 年度）
- 国土交通省国土技術政策総合研究所委託研究「地域づくりに資する ITS 等の活用に関する研究」（研究代表者：清水哲夫，2016 ～ 2018 年度）
- 東京都産業労働局観光部委託事業「観光経営人材育成事業」（実施代表者：清水哲夫，2017 ～ 2019 年度）

川原晋

- 基盤 A「観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術『地域観光プランニング』の詳細化と実装化」H29 年度採択、研究代表者
- 基盤 B 海外「フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法」H28 年度採択、研究分担者（研究代表者 : 佐藤滋　早稲田大学）
- 基盤 B「伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント」H28 年度採択、研究分担者（研究代表者 : 岡崎篤行 新潟大学）
- 基盤 C「地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究」、H27 年度採択、研究分担者（研究代表者 : 野原卓　横浜国立大学）
- 基盤 B「ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築」H31 年度採択、研究分担者（研究代表者 : 佐藤滋　早稲田大学）
- 【受託研究：八王子市 都市計画課】「高尾山口駅周辺地区観光

まちづくり史調査業務委託」受託組織：川原晋研究室 , H30.6 - H 31.3

- 【受託研究：山口県長門市】長門湯本温泉観光まちづくり事業景観ガイドライン運用・設計支援業務（アルセッド建築研究所を中心とする専門家メンバーとして）H30.4 - H 31.3

岡村 祐

- 基盤研究 (C)：都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性，（代表　首都大学東京　岡村祐），研究代表者，H30-32
- 基盤研究 (A)：観光地環境管理と市場活動の統合型計画技術「地域観光プランニング」の詳細化と実装化（代表 首都大学東京　川原晋）, 研究分担者，H29-32
- 基盤研究 (A)：ユネスコ「歴史的都市景観に関する勧告」後の都市経営戦略確立に関する研究（代表 神戸芸術工科大学　西村幸夫）, 研究分担者 , H28-31
- 基盤研究 (B)：伝統文化継承装置としての花街建築および景観の全国的体系化とマネジメント（代表　新潟大学　岡崎篤行）, 研究分担者 , H28-31
- 基盤研究 (C)：地域の産業特性を活かしたエリアコンバージョン手法の構築と展開可能性に関する研究（代表　横浜国立大学　野原卓），研究分担者 , H27-30

片桐由希子

- 科研費基盤研究 (B)：都市近郊における散策路事業の成立構造・計画思潮の変遷と縮退時代における活用可能性　2018 年度～ 2020 年度（分担者）
- 科研費基盤研究（B）：東アジア巨大都市における新自由主義型都市計画制度の成果と形成過程　2018 年度～ 2020 年度（分担者）
- 科研費　若手研究（B）：都市郊外部における公園緑地の管理運営に関する評価指標の設定と評価システムの構築　2017 年度～ 2019 年度（代表）
- 科研費 新学術領域（領域提案型）: 縮退都市におけるグリーンインフラ適用策の戦略的展開に関する研究　2016 年度～ 2019 年度　(分担者)
- 科研費 基盤研究（B）ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言　2016 年度～ 2020 年度 (分担者)
- 大林財団研究助成：米国ハリケーン・サンディー Rebuild By Design にみる減災都市デザイン戦略と手法の展開　2019 年度（分担）

野田満

- 若手研究 B：過疎自治体の地域づくりのための国内姉妹都市研究：今日的課題と活用プロセスの解明、平成 29-31 年度（代表）
- 公益財団法人ロッテ財団 奨励研究助成：過疎山間集落の「記憶の採集」による食文化史の解明と今日的活用に関する実践的研究、平成 30-31 年度（代表）
- 公益財団法人トヨタ財団 国内助成プログラム（しらべる助成）：林道の観光ポテンシャル調査：再び山と共に生きる為の里山資産の読み換え、平成 30 年度（プロジェクト統括支援）
- 愛知大学三遠南信連携研究センター 一般共同研究：観光圏整備事業における地域リソースの活用に関する基礎的研究、平成 30 年度（代表）
- 首都大学東京傾斜的研究費（部局分）若手奨励経費：アクションリサーチに基づく「観光むらづくり」のプロセスモデルの提案、平成 30 年度（代表）

古川 尚彬

- 基盤 (B) : フエ歴代皇帝陵周辺集落との協働による歴史的環境のマネジメント手法 平成 28-30 年度（分担）終了
- 基盤 (B) : ベトナム香江流域圏における歴史生態学的環境の持続的マネジメント計画論の構築 平成 31-34 年度（分担）※新規採択

平田徳恵

- 科研費 若手研究：観光政策立案実践の為に自治体職員に必要となる専門スキル把握と教育プログラムの提案 , 平成 30-32 年度（代表）

4．3　行動・経営科学領域

直井岳人

- 科学研究費基盤 C（代表者）「歴史的町並みにおける外国人観光客・住民間交流と地域理解促進の関係の類型化」（交付内定：平成 27 年度より 4 年間 [1 年延長]）
- 科学研究費基盤 B（研究分担者）「ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言」（交付：2016 年度より 3 年間）
- 科学研究費基盤 C（研究分担者）「人生 100 年時代のシニア留学：異文化接触がもたらす認知変容からの分析と提案」（交付：2018 年度より 3 年間）
- 科学研究費基盤 C（代表者）「観光者の環境配慮行動を誘発する他者行動：旅の恥をかき捨てない観光者行動の為に」（2019 年度交付内定：2019 年度より 3 年間）※新規採択

日原勝也

- 科研費　基盤研究（C）：　リスク分配契約に関する研究－航空分野を中心に、平成 28 － 30 年度（代表）

- 首都大学東京 平成 30 年度傾斜的研究費（部局分）国際化推進経費 , 平成 30 年度（代表）, - ラスパルマス大学観光と持続可能性経済に関する研究所 (Tides) との連携の準備・調整

ラスパルマス大学観光と持続可能性経済に関する研究所 (Tides) との連携の準備・調整

阿曽真紀子

- 助成事業（港区立男女平等参画センター）:「落語からジェンダーを考える講座」実施および調査 2018 年度（代表）

鈴木祥平

- 科研費 基盤研究（B）：ビッグデータを活用した観光地圏域のターゲット層別抽出と観光圏政策の評価・提言，平成 30 年度（分担）
- 受託研究（台東区役所）：上野駅周辺歩行者回遊行動調査，平成 30 年度（分担）
- 受託研究（上野文化の杜新構想実行委員会）：30 年度「UENOYES」社会的価値や経済的価値等の効果検証について，平成 30 年度（分担）

5．学生教育

5．1　所属学生

2017 年度は学部生 72 名 , 大学院生 51 名の計 123 名（うち留学生は 19 名）が在籍した.

学部生

4 年生 23 名 ,3 年生 17 名が自然・地域計画・マネジメント領域コース、1 年生 32 人が観光科学科に在籍した．本年度進級した 3 年生の分属前の所属については 3 名が都市環境学部地理環境コース ,7 名が都市教養学部人文社会系 ,2 名が都市教養学部法学系 ,3 名が都市教養学部理工学系 ,2 名が編入学である.

博士前期課程（修士課程）

修士課程 1 年 17 名（うち留学生 4 名）, 修士課程 2 年 10 名（うち留学生 1 名）が当学域に在籍した.

博士後期課程（博士課程）

博士課程 1 年 6 名（うち留学生 4 名）, 博士課程 2 年 5 名（うち留学生 4 名）, 博士課程 3 年 13 名（うち留学生 5 名）が当学域に在籍した.

留学生

上記のとおり , 留学生は修士課程 3 名 , 博士課程 14 名の計 17 名である．出身国は下表のとおりである.

留学生の出身国の内訳

出身国	修士課程	博士課程	合計
中国	3 名	1 名	4 名
韓国	0 名	1 名	1 名
タイ	0 名	2 名	2 名
マレーシア	0 名	3 名	3 名
インドネシア	0 名	2 名	2 名
トルコ	0 名	1 名	1 名
ベトナム	0 名	1 名	1 名
バングラデシュ	0 名	1 名	1 名
ネパール	0 名	1 名	1 名
インド	1 名	0 名	1 名

留学生短期受け入れ

JASSO 海外留学支援制度に基づく短期研究「都市の持続的発展を支える国際的環境人材の育成プログラム」（代表：横山勝英）において、フィリピン大学ロスバニョス校より 4 名の学生の受入を行なった。

5．2　研究室への配属

4 年生以上 74 名の学生の配属先研究室は下表のとおりである.

各研究室所属の学生数

領域	研究室	卒論生	修士課程	博士課程	計
自然	菊地　俊夫	3	7	6	16
自然	沼田　真也	3	6	4	13
自然	大澤　剛士	2	0	0	2
計画	清水　哲夫	4	4	8	16
計画	川原　晋	4	4	0	8
計画	岡村　祐	2	3	2	7
政策・情報	直井　岳人	2	3	4	9
政策・情報	日原　勝也	3	0	0	3

5．3　学位論文

博士論文

所定の審査を受け , 下表に示す 7 名の博士論文が合格した.

2018 年度博士論文一覧

氏名	論文タイトル	主査
Theingthae Sommai	Sustainability of Community-Based Ecotourism Development Post Tsunami Disasters: Comparison between Buddhism and Muslim Communities in Phuket Province, Thailand（タイ・プーケットの津波災害後における地域コミュニティ基盤型エコツーリズムの発展とその持続性：ムスリム系コミュニティと仏教系コミュニティの比較を通じて）	菊地 俊夫
洪　明真	江戸後期における行楽空間の特徴に関する歴史地理学的研究	菊地 俊夫
高橋　環太郎	The Study of Tourism Impact by Socioeconomic Nexus on Small Islands in Pacific Region for Possibility of Sustainable Development(太平洋の島嶼地域における社会経済と観光需要の関係およびその持続的発展の可能性に関する研究)	菊地 俊夫
上原　明	観光目的地の商業空間における店舗特性の評価が観光者の購買意向へ与える影響：人間－環境系領域の知見の応用による観光現象へのアプローチ	直井 岳人

修士論文

所定の審査を受け , 下表に示す 9 名の修士論文が合格した.

2018 年度修士論文一覧

氏名	論文タイトル	主査
芦澤 侑哉	体験型ふるさと納税返礼品の活用によるステイクホルダー間の継続的関係構築 ー自治体・事業者・寄付者の意向に着目して	川原 晋
大塚 伊織	狩猟者確保に向けた対策は有効か？狩猟参加における阻害要因の解明	沼田 真也
谷口 捺実	Gender ratio in videos promoting tourism destinations（観光プロモーションビデオにおけるジェンダー比）	沼田 真也
中嶋 紀菜里	観光地域振興における公立博物館の役割と担い手	清水 哲夫
中俣 良太	潜在的訪問客の火山観光地訪問回避モデルに情報介入が及ぼす影響 ー報道後の リスク増幅に着目してー	直井 岳人
那須 和生	観光客の地域内モビリティサービスに対する支払意思額の要因分析	清水 哲夫
西村 圭太	ボランタリー地理清報データ を用いたサイ ク リ ス トの周遊行動の分析 ー北海道を事例にー	菊地 俊夫
山本 彩華	Resource management of Manila clam in a clamming area in terms of harvest and satisfaction of clamming participants（潮干狩り客の収穫と満足度からみるアサリの資源管理）	沼田 真也
顧 皓	森林セラピーツーリズムの構築および森林セ ラピーの発展に伴 う地域資源のコ ラボ レーシ ョンに関する研究 ー東京都奥多摩町を例として	菊地 俊夫

卒業論文

下表に示す 22 名が卒業論文を提出した.

2018 年度卒業論文の一覧

氏名	論文タイトル	主査
小出 さくら	海水浴場に対する認証ブルーフラッグ認証取得を目指す地域の取り組みに関する研究	川原 晋
天目 岳志	地方空港ターミナルの地域交流拠点としての活用とその空港及び地域への影響に関する研究ー能登空港ターミナルを事例としてー	岡村 祐
石井 萌美	観光地における非観光者向けの情報発信と実態把握 ー観光まちづくり推進組織を擁する温泉観光地を対象としてー	川原 晋
関根 佑輔	ふるさと納税における「返礼品」の現状とその特性についての一考察 ーふるさと納税サイトの分析を切り口にー	日原 勝也
村松 美桜	店舗看板における方言使用が潜在的観光客の看板の印象評価と広告興味・入店意向に及ぼす影響：沖縄県那覇市の方言と商業店舗を対象として	直井 岳人
青木 卓也	運営目的の変化からみた宿泊型ゲストハウスの今日的課題―内在的問題と対外的関係に着目して―	川原 晋
岡本 直之	温泉地における客数増加の要因	日原 勝也
大澤 佑	整備新幹線開業時の並行在来線スキームが地域住民の鉄道利用時サービス水準評価に及ぼす影響の実証的分析ー新潟県上越市とその周辺地域を対象にー	清水 哲夫
小野塚 瑞季	小笠原における外来植物の生態影響評価及び利用可能性の検討	大澤 剛士
水上 智絵	絶滅が危惧される二年生草本の生態と環境教育の効果に関する研究	沼田 真也
田村 優衣	都市公園における文化的サービスの捕捉および定量評価	大澤 剛士
佐藤 大行	北海道を訪れるツーリング旅行者の観光動機の要因に関する研究	菊地 俊夫
鳥山 昇吾	谷中霊園における緑資源の現状把握と管理手法の検討 ー住民・観光客の視点に着目してー	清水 哲夫
五十嵐 鮎夏	思い出に残る観光経験ーガイドの有無と経験の自発性による影響ー	直井 岳人
小林 祥	野生動物観光におけるカメラトラップ設置場所の検討 ーマレーシア エンダウ・ロンピン国立公園を事例としてー	沼田 真也
武井 進也	ソメイヨシノの開花期間とそれに影響を及ぼす気象要素	菊地 俊夫
小林 憲太	住宅地の野生動物問題における苦情と野生動物の行動 ーカラスを事例としてー	沼田 真也
菅井 颯	既成市街地における沿道建造物の用途から読み解く観光都市化の要素と要因	菊地 俊夫
大川 恭平	観光客の満足に混雑の事前予想と現地での知覚が及ぼす影響の分析ー紅葉時期の高尾山を事例としてー	清水 哲夫
田中 僚	物件所有者の立場からみた民泊実態に関する調査研究 ー民泊新法施行後の京都市を対象としてー	日原 勝也
小向 光	都立美術館における収益事業としての施設貸出の現状と課題 ーファッションショーの実施事例を糸口にしてー	岡村 祐
琴原 成啓	観光協会の Twitter ユーザーへのコミュニケーション方法とそれによる観光 PR への影響に関する研究	清水 哲夫

6．ECO-TOP プログラム

6．1　ECO-TOP プログラム修了者

2017 年度は , 学士課程 1 名が ECO-TOP プログラムを修了した.

ECO-TOP プログラム修了者一覧（2017 年度）

学域 / コース	氏名	ECO-TOP　ID 番号
自然・文化ツーリズムコース	小野塚瑞季	01eco-top18001
自然・文化ツーリズムコース	小林祥	01eco-top18001

6．2　インターンシップ

2018 年度は学士課程 3 年生 2 名が , 下記の受け入れ先でインターンシップを実施した.

ECO-TOP プログラムにおけるインターンシップ先一覧

学年	民間企業	NPO, 財団 , 社団	行政
学士 3 年	パシフィックコンサルタンツ株式会社	公益財団法人日本自然保護協会	東京都環境局自然環境部
学士 3 年	パシフィックコンサルタンツ株式会社	公益財団法人日本自然保護協会	東京都環境局自然環境部

7. ＡＳＥＡＮ国際学生交流事業学生派遣プログラム

首都大学東京は , ＡＳＥＡＮ国際学生交流事業学生派遣プログラム（AIMS）のパートナー大学として , ツーリズムを通じた科学的視点における地域開発に焦点を当て , 都市環境学部を通じた短期の留学ププログラムを実施している．2018 年度の学生の受け入れ , 派遣の状況は以下の通りである．

7. 1　マレーシアからの学生の受け入れ

マレーシア工科大学の建築環境測量学部より 3 名 , マレーシア・プトラ大学の森林学部より 2 名の学生を受け入れた．滞在期間と主なプログラムは以下の通りである．

滞在期間　2018 年 9 月 19 日～ 2019 年 1 月 31 日
滞在場所　グローバル・ハウス調布
発表会等　Final Presentation and Farewell Party
（2019 年 1 月 26 日　於・首都大学東京南大沢 C）
講義
事前共通教育
Tourism and Geography in Japan
専門科目
Transport Planning and Management for Tourism Promotion / Regional Environmental Studies / Environmental Ecology I / Environmental Ecology II / Town Planning in Tourism / Tourism theories and practice / Tourism Theory II / Tourism Informatics / Exercise on Geographic Information Science for Tourism / Field Exercise in Environmental Ecology / Nature- and culture-based tourism science Seminar I / Regional environment science：practical field training* / Exercise on Community Development through Tourism*
* のついている科目は , 東京農工大学および茨城大学が受け入れている留学生でも履修可能な乗入科目として提供された．

7. 2　自然・地域計画・マネジメント領域コースからの派遣

自然・地域計画・マネジメント領域コースからは 3 年生 3 名をマレーシア・プトラ大学派遣した（その他都市基盤環境コース，分子応用化学コースからそれぞれ 1 名をマレーシア工科大学へ派遣した）．派遣期間と当該派遣学生が現地で履修した科目は以下の通りである．

期間：2018 年 9 月～ 2019 年 1 月
派遣先大学・学部：
1）マレーシア・プトラ大学（UPM）
森林学部 1 名 , 経済・経営学部 2 名
2）マレーシア工科大学（UTM）
建築環境学部 2 名
履修科目
1）マレーシア工科大学 (UTM)
建築環境学部
Tourism Planning / Urban Design / Planning Practice / Sustainable Transportation
2）マレーシア・プトラ大学 (UPM)
森林学部
Forest Ecology / Watershed Management / Environmental Interpretation / Geographic Information System in Forestry
経済・経営学部
Tourism and Recreation Economics / Principles of Marketing / Principles of Economics / Principles of Management

Outcome Presentation of Project-Based Leaning by Inbound Students

2019 AIMS Program Wrap-up (Final OutcomesPresentations)

Regional environmental science- practical field training (Nogawa)

Farewell Party

8．観光経営副専攻

8．1　観光経営副専攻コース修了者

2018 年度は , 下記の 29 名が観光経営副専攻コースを修了した.

- 都市教養学部 人文・社会　5 名
- 都市教養学部 法学　1 名
- 都市教養学部 経営学　17 名
- 都市環境学部 観光　4 名
- 都市環境学部 基盤　2 名

8．2　インターンシップ

2018 年度は博士前期（修士）課程 1 年生 2 名と学部 3 年生 4 名の計 6 名が下記の受け入れ先でインターン シップを実施した.

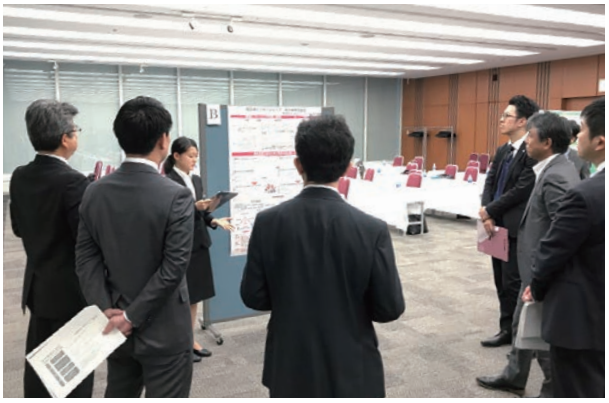
派遣企業：

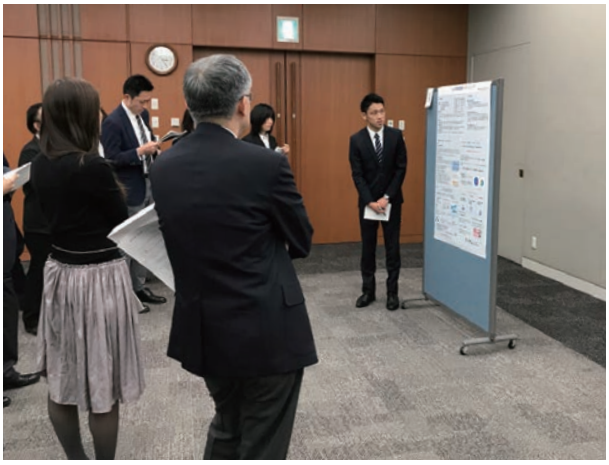
- 株式会社　ANA 総合研究所
- 株式会社　味の素
- 森トラスト・ホテル＆リゾーツ株式会社
- 三菱ＵＦＪニコス　株式会社
- ヤマト運輸　株式会社
- リゾートトラスト　株式会社

学生：

- 都市教養学部 経営学系　2 名
- 都市環境学部 自然・文化ツーリズムコース　2 名
- 大学院 観光科学域　2 名

授業の様子（宿泊産業論）





インターンシップ報告会の様子

9．社会貢献

9．1　自然環境マネジメント領域

菊地俊夫

- 地理空間学会会長
- 公益社団法人日本地理学会代議員
- 東京地学協会行事委員会委員
- 人文地理学会学会賞選考委員会委員
- 日本ジオパーク委員会委員
- 日本オーガニック＆ナチュラルフーズ協会（JONA）認証判定委員・委員長
- 国土交通省審議会会長（小笠原島嶼地域振興担当）
- 農林水産省生産資材専門委員会委員
- 東京都環境局 ECO-TOP プログラム認定検討会会長
- 東京都海上公園指定管理者評価・選定委員会委員
- 八王子市公園管理選定委員会委員長
- 八王子市斜面緑地保全委員会委員長
- 調布市まちづくり審議会委員
- 大島復興計画策定員会委員
- 名古屋インバウンド観光協会理事

沼田真也

- 日本生態学会　キャリア支援専門委員
- Malaysian Journal of Remote Sensing　誌 (Malaysian Remote Senisng Scociety) Editorial Board
- 文部科学省科学技術・学術政策研究所・科学技術動向研究センター専門調査員
- 地方公共団体人事委員会技術専門問題作成委員
- 多摩市みどりと環境審議会・委員・会長
- 多摩市街路樹よくなるプラン改訂委員会・副委員長
- 国分寺市環境推進管理委員会・委員
- 八王子市環境審議会・委員
- 八王子市みどりの基本計画策定懇談会・委員・座長
- 国分寺市環境アドバイザー
- 国際自然保護連合 (IUCN)・世界保護地域委員会 (WCPA)・委員、観光と保護地域専門家グループ (TAPAS)・メンバー

大澤剛士

- 日本生態学会　理事
- 日本生態学会　代議員
- 日本生態学会　電子情報委員
- 日本生態学会　和文誌編集委員
- 日本生態学会　英文誌編集委員
- 全国野菜園芸研究大会における基調講演
- 全国こんにゃく研究集会における基調講演
- 群馬県農政部への UAV 利用に関する指導助言

杉本興運

- 日本地理学会総務委員会委員
- 地理情報システム学会代議員
- 地理情報システム学会大会実行委員
- 地理情報システム学会大会本部スタッフ
- 日本地理学会観光地域研究グループ発起人
- 首都大オープンユニバーシティ「若者観光講座」の企画・講師
- 首都大オープンユニバーシティ「MICE 講座」の講師
- 査読貢献：Tourism Management、Environment and Planning B、Landscape Research、観光研究

太田慧

- 日本地理学会　選挙管理委員会

9．2　地域計画・マネジメント領域領域

清水哲夫

■学会関連

- 米国旅行・観光研究学会アジア太平洋支部理事
- 土木学会国際センター国際交流グループミャンマーグループリーダー
- 土木学会土木計画学研究委員会 ITS とインフラ・地域・まちづくり研究小委員会委員長
- 交通工学研究会研究委員会技術顧問
- 交通工学研究会査読委員会委員

■学外役職

- 公益社団法人日本観光振興協会総合調査研究所所長兼日本観光振興アカデミー学長
- 一般財団法人運輸総合研究所総合研究部研究アドバイザー

■有識者委員等

- 観光統計の整備に関する検討懇談会委員（観光庁）
- 観光圏整備に関する検討会委員（観光庁）
- インフラツーリズム有識者懇談会座長（国土交通省総合政策局）
- ビッグデータによる旅客流動把握の高度化に関するワーキング委員（国土交通省総合政策局）
- 地域道路経済戦略調査研究会委員（国土交通省道路局）
- 東京都市圏総合都市交通体系調査技術検討会対流拠点ワーキ

ング委員（国土交通省関東地方整備局）
- 利用者の視点に立った東京の交通戦略推進会議委員兼水辺空間活用ワーキング主査（東京都都市整備局）
- 三学会合同による TDM 推進に関する検討会委員（東京都オリンピック・パラリンピック準備局）
- まちの魅力向上に向けた道路等の公共空間活用検討会委員（千代田区）
- 町田市交通安全行動計画策定および推進委員会委員長
- 大田区交通政策基本計画推進協議会副会長
- 首都高交通量推計手法検討委員会幹事長兼委員（㈱首都高速道路）
- 地域連携推進団体協議会アドバイザー（(財) 国土計画協会）
- 観光と地域交通に関する研究会委員（(公財) 運輸総合研究所）
- 観光経営力強化事業観光アドバイザー（(公財) 東京観光財団）

■社会人講座企画・運営
- 観光経営トップセミナー
- 地域創生スクール
- 東京都観光経営人材育成講座

■講演・研修講師
- 観光マーケティング研修会（町田市）(2018.5.29)
- 観光戦略プロジェクト第 2 回アイデアソン（公立大学法人首都大学東京都市課題戦略機構）(2018.6.20)
- パレスチナ観光統計整備支援研修（(独法) 国際協力機構）(2018.7.17)
- 平成 30 年度国土交通大学校地域活性化企画研修（国土交通大学校）(2018.7.19)
- 平成 30 年度日本沿岸域学会講習会講師（日本沿岸域学会）(2018.9.11)
- 道路政策に関する講演会（(公社) 日本道路協会）(2018.9.27)
- パレスチナ観光統計整備支援研修（(独法) 国際協力機構）(2018.10.9)
- パレスチナ観光統計整備支援研修（(独法) 国際協力機構）(2018.12.5)
- インド高等教育省講師招聘プログラム GIAN 講義（インド工科大学カラグプル校）(2019.3.11-15)

川原晋

■学会活動
- 日本建築学会 都市計画本委員会「地域観光プランニング小委員会」幹事
- 日本建築学会 計画系委員会活性化委員会　委員

■自治体の委員 / 市民活動
- 横浜市地域まちづくり推進委員会 まち普請事業部会委員
- 長門湯本温泉観光まちづくりプロジェクト デザイン会議委員
- 青梅観光戦略創造プロジェクト委員会　座長
- 藤沢市都市景観アドバイザー（藤沢市計画建築部景観課）
- 八王子市景観審議会委員（八王子市まちなみ景観課）
- 同・協議審査専門部会委員
- 同・制度設計部会委員
- 同・景観アドバイザー
- 八王子市観光コンベンション協会　理事
- 八王子市高尾山口駅周辺地区まちづくり連絡会準備会委員（八王子市都市計画課）
- 川崎市民間活用推進委員会委員　委員
- 町田市観光まちづくり推進委員会　委員
- あきる野市まち・ひと・しごと総合戦略推進会議　副座長
- 一般社団法人　エリアマネジメント南山　理事　（東京都稲城市内）
- 一般社団法人 大田クリエイティブタウンセンター理事　（東京都大田区内）

■講演・研修講師
- 国土交通大学校「建築計画（企画・設計）研修」　講師
- 国土交通大学校「官民交流研修」　講師

岡村 祐

■自治体の委員など
- 茅ヶ崎市景観アドバイザー , 2005.11 ～
- 韮崎市史跡新府城跡保存整備委員会委員 , 2013.04 ～
- 東京都福祉のまちづくり推進協議会委員 , 2014.05 ～
- 調布市都市計画審議会委員，2016.06 ～
- 羽田空港ベイエリア地区・インバウンドビジネス協議会委員，2018.07 ～
- 東京都「東京ベイエリアビジョン」（仮称）の検討に係る官民連携チーム「活力と躍動感のあるまち WG」座長，2018.10 ～

■学会活動
- 日本建築学会（都市計画本委員会委員、地域観光プラニング小委員会委員主査）
- 日本観光研究学会（理事、広報 IT 委員）

■講演
- （講演）「松本城公園の在り方を考えるシンポジウム」，松本市教育委員会，Mウイング（長野県松本市），2018 年 4 月 15 日
- （講演）「北陸観光研究ネットワーク（仮）第 1 回研究会」，北陸先端科学技術大学院大学，金沢駅前オフィスポルテ金沢 9F（石川県金沢市），2018 年 10 月 7 日
- （ゲスト講師）「海外事例研究」, 明治大学 公共政策系 (専門職) 大学院 ガバナンス研究科，明治大学駿河台キャンパス（東京都千代田区），2018 年 12 月 12 日
- （講演）「東京都港湾局タイムリー研修」，東京都港湾局，東京都庁（東京都新宿区），2019 年 3 月 7 日

■その他

- NPO 法人アーバンデザインセンター・茅ヶ崎副理事長
- 一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター代表副理事

片桐由希子

- 都市計画学会事業委員
- 造園学会編集委員
- 佐倉市景観審議会委員・景観アドバイザー
- 八王子医療刑務所移転後用地の活用に関する懇談会委員
- 新潟県立都市公園指定管理者評価・審査委員
- 三鷹駅南口駅前広場交通対策検討専門部会

野田満

- 日本建築学会 農村計画委員会・幹事
- 日本建築学会 農村計画委員会 農村地域づくり小委員会・委員
- 日本建築学会関東支部 農村建築専門研究委員会・主査
- 日本建築学会関東支部 研究運営委員会・委員
- 農村計画学会 編集委員会・委員

平田徳恵

- 日本建築学会 住まい・まちづくり支援建築会議 情報事業部会委員（幹事）
- 八王子市まちづくりアドバイザー
- 調布市街づくり専門家
- 東京都観光経営人材育成講座講師

9.3　行動・経営科学領域

倉田陽平

- 観光情報学会理事
- web 上，ならびに専用端末を京王本線新宿駅観光案内所にも設置，ミライト社の挙力により全国 19 ホテル数千室に設置のタブレット端末上に直接アクセスリンクを設置）で街歩きプラン，島歩きプランを対話的に作成できるオンラインツール CT-Planner，日本語で 83 地域，英語で 68 地域，簡体中国語で 75 地域，繁体中国語で 74 地域，韓国語で 74 地域の案内を提供
- web 上でグーグルストリートビューを利用したバーチャルツアーを作成・発信できるオンラインツール「でれでもガイド」を提供，30 コンテンツを発信中

直井岳人

- 日本観光研究学会学術委員
- 日本観光振興協会寄付講座実施担当
- 東京都観光人材育成講座講師

日原勝也

- 東京都及び首都大学東京　2018 年度観光経営人材育成講座講師　平成 30 年 12 月、秋葉原サテライトキャンパス
- シェアリングエコノミー勉強会　講師　（主催：多摩信用金庫、連携：関東経済産業局、八王子市、日野市、国分寺市、独：都市再生機構）平成 31 年 3 月、八王子市内

阿曽真紀子

- 平成 30 年度「地域 IoT 実装推進事業」 協議会委員

鈴木祥平

- 地域創生スクール 運営・講師
- 東京都観光経営人材育成講座 講師

１０．受賞等

川原晋

- 2018 年度　首都大学東京　都市環境学部　主幹教授（Leading Professor）

＜指導学生の若手優秀発表賞受賞＞

- 甲田 亮輔 , 川原 晋（2018）,「新宿ゴールデン街を訪れる外国人観光客の期待と店舗の歓迎意向別対応」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.47-50, 2018.09
- 中村 優里 , 川原 晋 , 片桐 由希子（2018）,「全国都市緑化フェアがもたらすレガシーとその持続性について」日本建築学会大会学術講演梗概集（選抜梗概 , 都市計画), pp.11-14, 2018.09

岡村祐

- 大田区でのオープンファクトリーの取り組みが、「第４回ジャパン・ツーリズム・アワード」地域部門賞を受賞した（2018 年９月）。

杉本興運

- 首都大学東京リーディングサイエンティスト賞

月日	できごと
4/3	観光科学科新入生ガイダンス / 歓迎会
4/3, 4	自然・文化ツーリズムコース新入生ガイダンス / 歓迎会
4/6	入学式
4/12	第 1 回進級ガイダンス
5/18	大学院入試説明会
7/5	第 2 回進級ガイダンス
7/30	博士論文（秋）公聴会
8/1,2	大学院入試（夏季）
10/3	博士前期課程・4 年生合同ゼミ
10/4	第 3 回進級ガイダンス
1/10	第 4 回進級ガイダンス
1/24	修士論文発表会（審査会）
1/30	博士論文（春）公聴会
2/8d	卒業論文発表会（審査会）
2/7	大学院入試（冬季）
3/22	卒業式

１１．コース・学域プロモーション

１１．１　紀要「観光科学研究」の編集・発行

2018 年 3 月 , 紀要「観光科学研究」第 12b 号を編集･発行した. 8 本の論文が採択・掲載された. 掲載論文の内訳は , 論説 6 本 , 展望 1 本 , 研究ノート 1 本であった.

観光科学研究　第 12 号

１１．２　観光を科学する PBL の発行

2018 年度の学部 3 年生向け PBL 演習の成果について , 「観光科学 PBL 2018」 と題する報告書としてまとめ発行した.

観光科学 PBL 2018

１１．３　コース進級ガイダンス

2018 年度は 2 年生を対象した進級ガイダンスを下表のとおり 4 回実施し , 最終的に他コース , 他学部から合わせて 15 名が当コースに進級した.

進級ガイダンスの実績

回	月日	アンケート回収数
第 1 回	4 月 12 日	58 名
第 2 回	7 月 5 日	10 名
第 3 回	10 月 4 日	19 名
第 4 回	1 月 10 日	18 名

１１．５　大学院入試説明会

2018 年度は , 大学院入試説明会を下記のとおり 1 度開催した.

- 5 月 19 日（土） 南大沢キャンパス

観光科学 PBL 2018

首都大学東京 都市環境学部 観光科学学科
首都大学東京大学院 都市環境科学研究科 観光科学域
2018 年度アニュアルレポート
http://www.comp.tmu.ac.jp/tourism/index.html

編集・発行：首都大学東京都市環境学部観光科学教室
発行日：2019 年 5 月 15 日

内容に関してのお問い合わせ
〒 192-0397　東京都八王子市南大沢 1 － 1
首都大学東京 都市環境学部 観光科学教室
片桐 由希子（アニュアルレポート作成担当）
電話：042-677-1111（内）4241